

資料編

1. 文化財に対する市民アンケート

下野市の文化財に対する市民の意識を探るために、本市の生涯学習に関するアンケート調査の中で、文化財に関するアンケートも行った。また、しもつけ風土記の丘資料館歴史講座参加者を対象に生涯学習アンケートとほぼ同じ内容のアンケートを行った。（※しもつけ風土記の丘資料館アンケートについては平成27・28年度に実施しているが、平成28年度実施分は平成27年度分に改変を加えたものとなっている。）さらに、しもつけ風土記の丘資料館へ見学に訪れる小学校6年生を対象にアンケートを実施した。

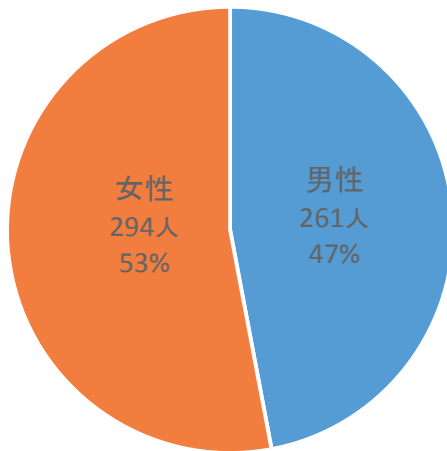
1) 生涯学習アンケートにおける文化財等についてのアンケート結果

①調査対象

20歳以上の市民2000人（男女・地域・年齢層を均一割合で無作為抽出）に対してアンケートを配布し、555名（28%）から回答を得た。

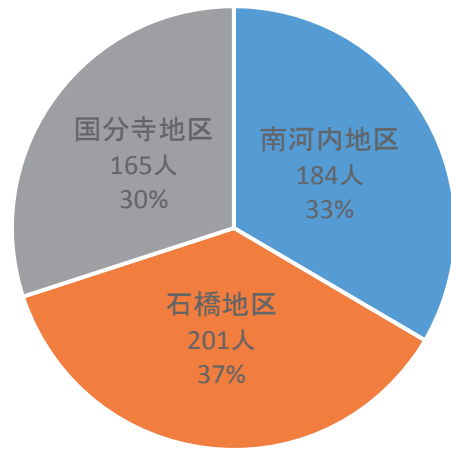
■性別

女性53%、男性47%で、ほぼ半々の割合であった。



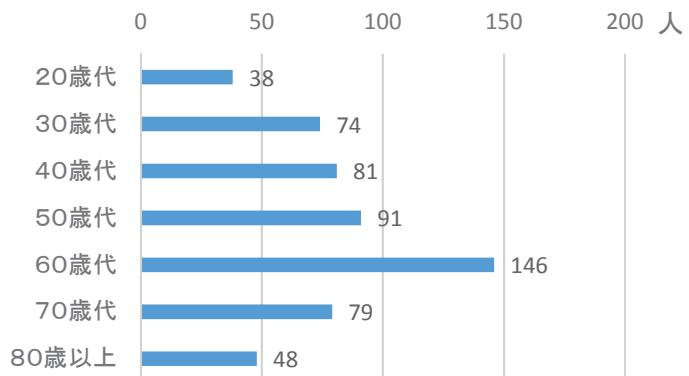
■居住地域

旧南河内・石橋・国分寺町地域それぞれで、ほぼ同じ割合の回答率であった。



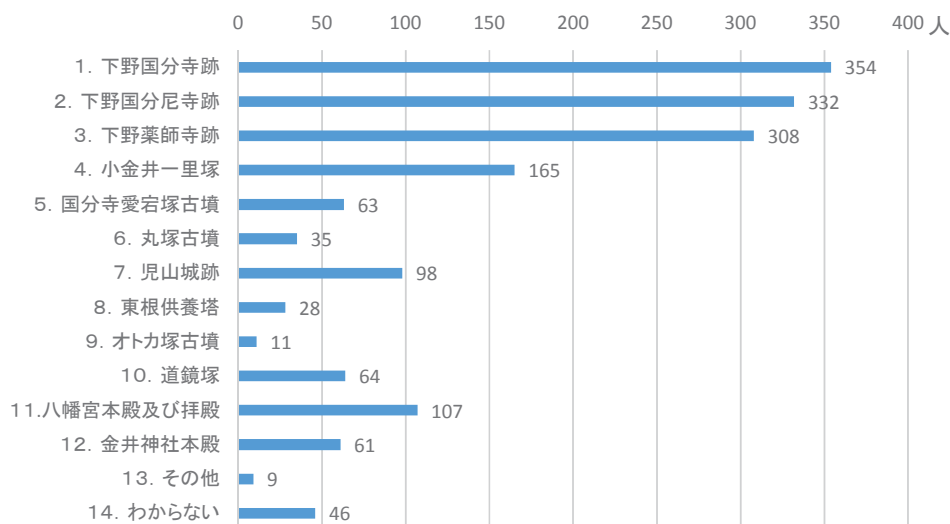
■年齢

60歳代が146人と最も多く、30歳代、40歳代、50歳代、70歳代はほぼ同程度の人数であった。80歳代以上の人数に対して、20歳代は少なく、若い世代の文化財に対する関心が相対的に低いことがうかがえる。



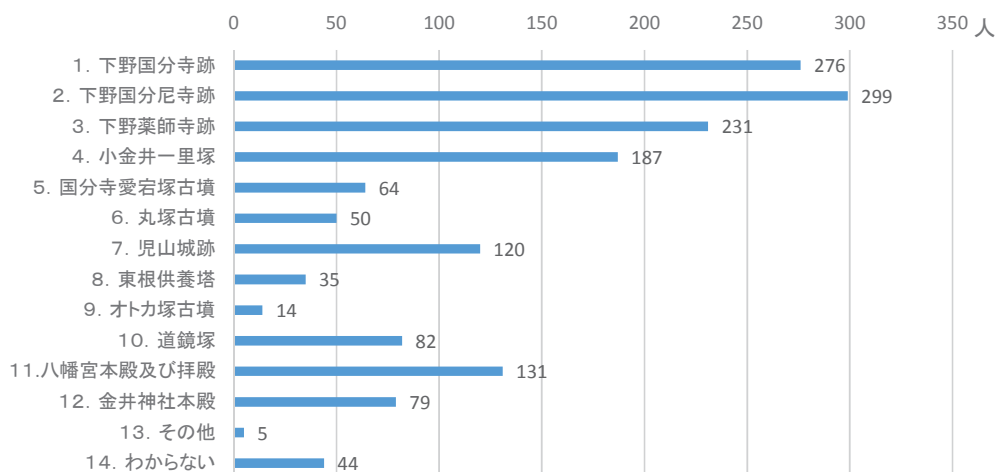
②下野市の文化財でまず思い浮かべるもの（複数回答）

下野国分寺跡、下野国分尼寺跡、下野薬師寺跡を回答した人数は、それぞれ 300 人以上と非常に多い。下野国分寺跡、下野国分尼寺跡については約 60%、下野薬師寺跡については約 50%がまず思い浮かべると回答した。次に回答率が高かったのは、小金井一里塚（約 30%）であった。上位 4 つはすべて国指定の史跡であり、国指定文化財の周知率が高いことがうかがえる。その他の文化財については、20%以下であった。



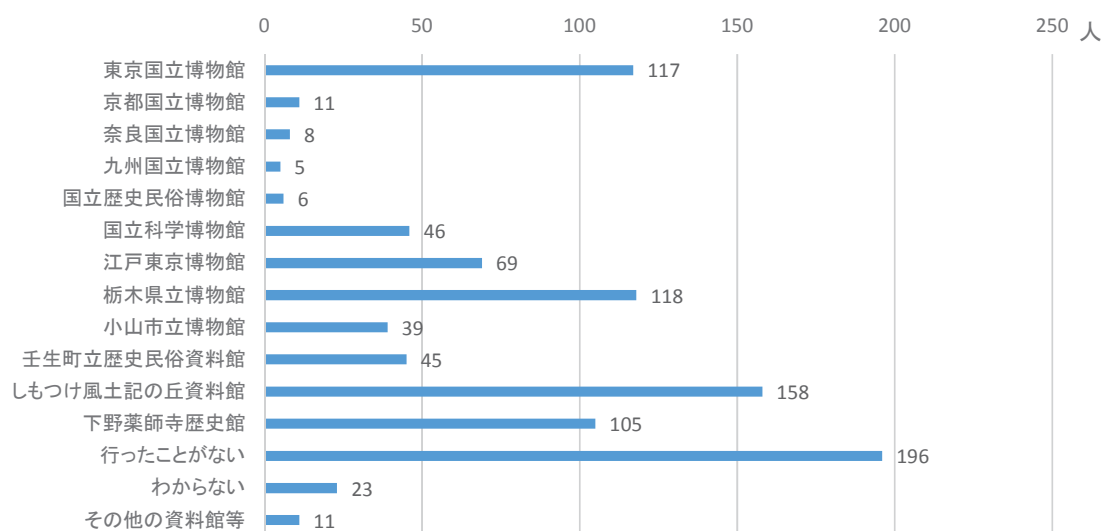
③下野市の文化財で訪れたことのあるもの（複数回答）

下野国分尼寺跡、下野国分寺跡、下野薬師寺跡、小金井一里塚の上位 4 つは「思い浮かべるもの」と同じ回答であったが、「思い浮かべるもの」では 1 位であった下野国分寺跡が 2 位となり、2 位であった下野国分尼寺跡が 1 位と逆転した。これは、下野国分尼寺跡が、天平の花まつり会場であることとの関連性が高いと考えられる。上位 3 つは「思い浮かべるもの」に対して割合が下がっている。これは、文化財として思い浮かべはするが、訪れたことがないことを示す回答者が 10%程度存在することが推測される。これに対して、小金井一里塚は「訪れたことがある」の回答が「思い浮かべるもの」を上回った。また、児山城跡や八幡宮本殿及び拝殿も「訪れたことがある」の回答が「思い浮かべるもの」を上回っている。



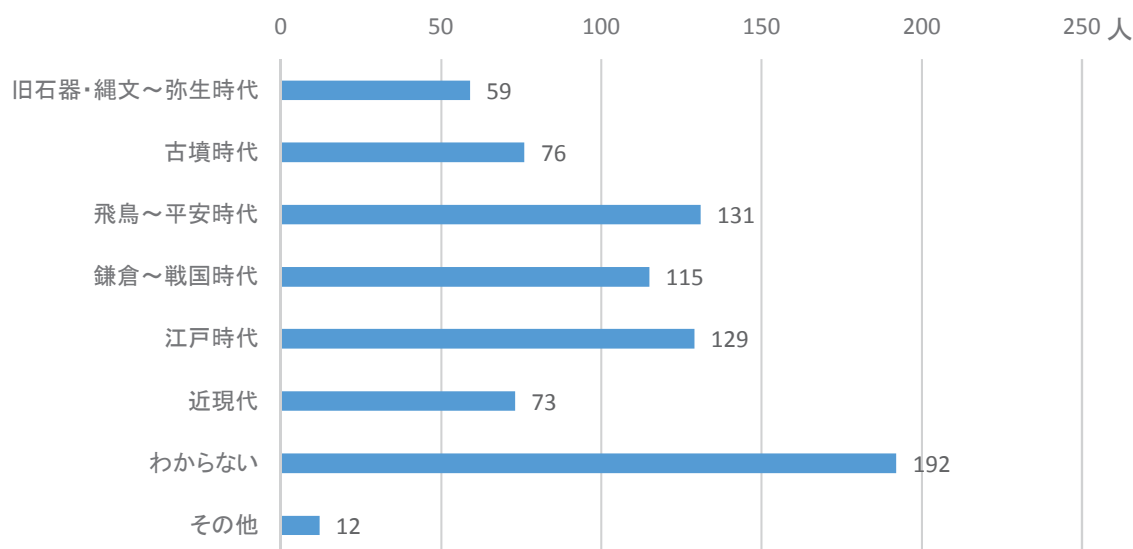
④過去5年以内に行った文化施設（複数回答）

「行ったことがない」という回答が196人（35%）で1位であった。次にしもつけ風土記の丘資料館、栃木県立博物館、東京国立博物館、下野薬師寺歴史館の順であった。過去5年以内に博物館、資料館を訪れたことがない回答者が多いものの、約20%の回答者が、東京国立博物館や、栃木県立博物館を訪れている。これらの施設、特に東京国立博物館では恒常的に様々な企画展を行っている。ここから、興味のあるものに対しては、多少、足をのぼしても訪れる意欲のある層が一定数存在することがうかがえる。



⑤下野市の歴史の中で興味がある時代（複数回答）

「わからない」という回答が192人（35%）で1位であった。続いて、飛鳥～平安時代、江戸時代、鎌倉～戦国時代、古墳時代であった。古墳時代と飛鳥～平安時代を合わせると207人（37%）となるが、これは、本市にこの時代の遺跡が多いことに対応していると思われる。本市において指定文化財の件数は古代に比べて少ないが、鎌倉～戦国時代、江戸時代についても、20%以上の回答者が「興味がある」と答えている。



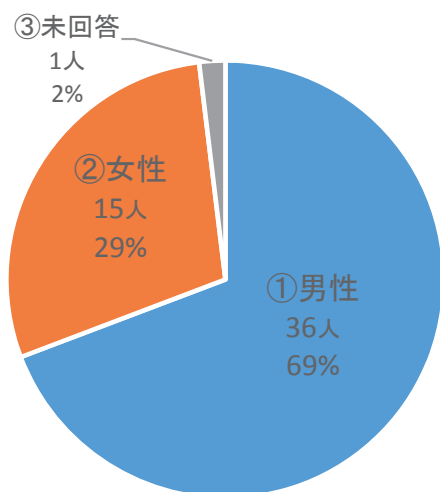
2) しもつけ風土記の丘資料館歴史講座参加者を対象としたアンケート調査

しもつけ風土記の丘資料館で行った定期歴史講座（平成 27 年度、平成 28 年度）の参加者に対してアンケートを配布し調査を実施した。平成 27 年度は 52 名、平成 28 年度は 31 名の回答を得た。

【平成 27 年度のアンケート】

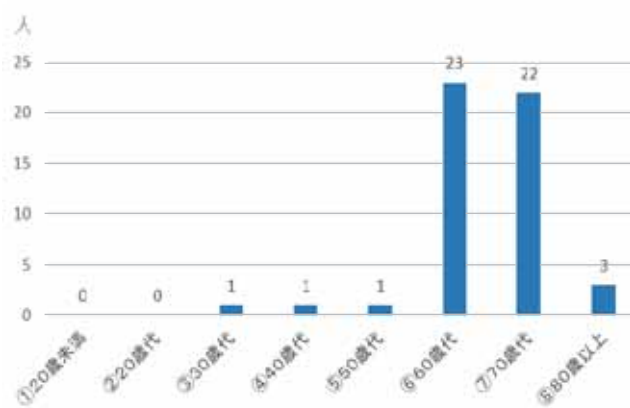
■性別

女性 29%、男性 69%で、約 70%が男性であった。



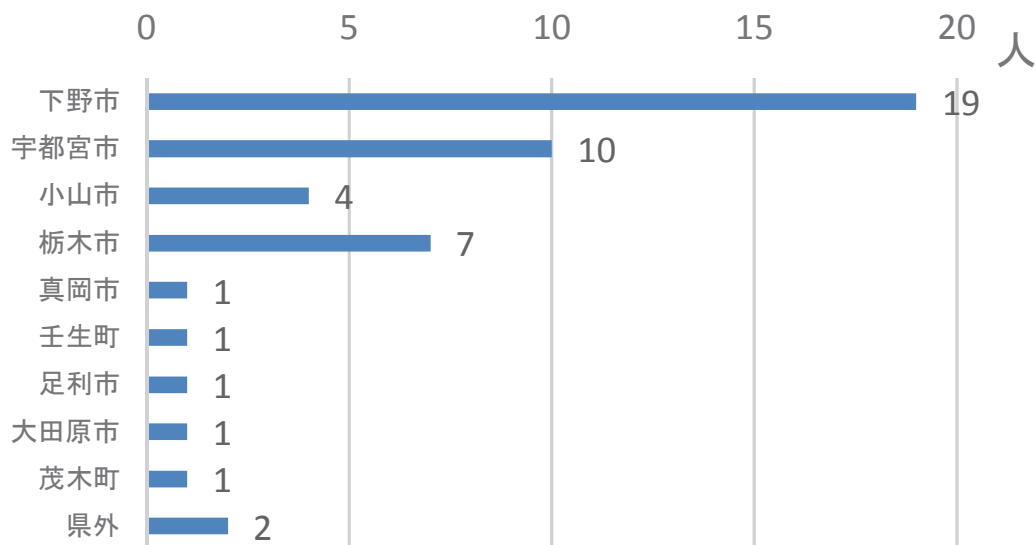
■年齢

60 歳代が 23 人（44%）、70 歳代が 22 人（42%）でこの両年齢層で 80%以上という結果であった。20 歳代以下は 0 人であり、興味関心が薄いと見られる。



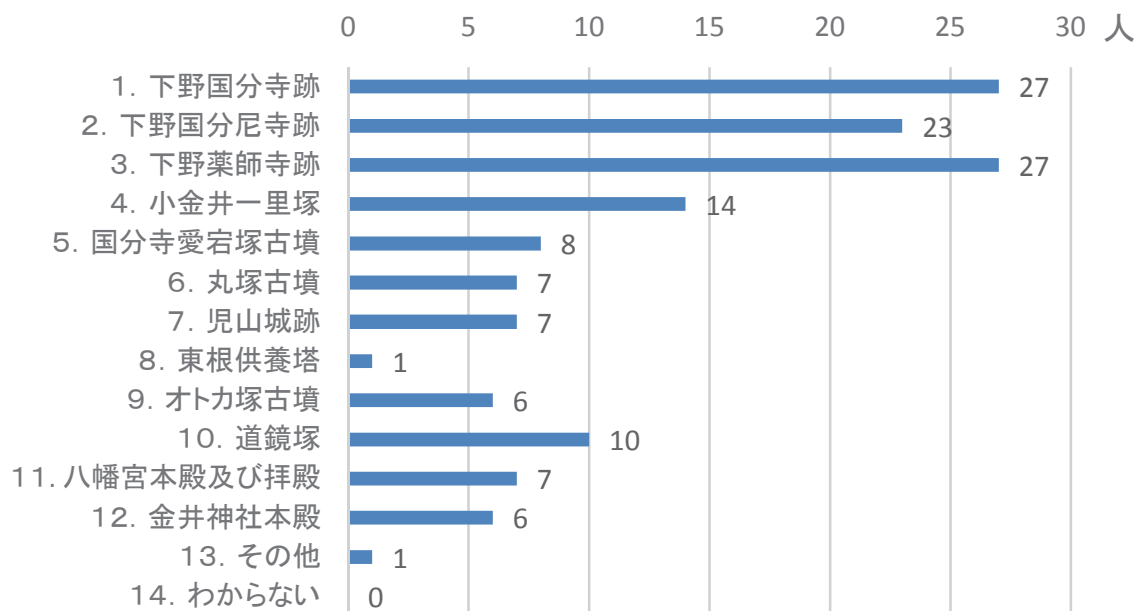
■居住地域

市内が 19 人（37%）と最も多く、続いて宇都宮市、栃木市、小山市が上位であった。北は大田原市、西は足利市など、県内全域から人が集まっており、県外からは 2 人の参加者がいた。講座に興味があれば遠方からも訪れることがうかがえる。



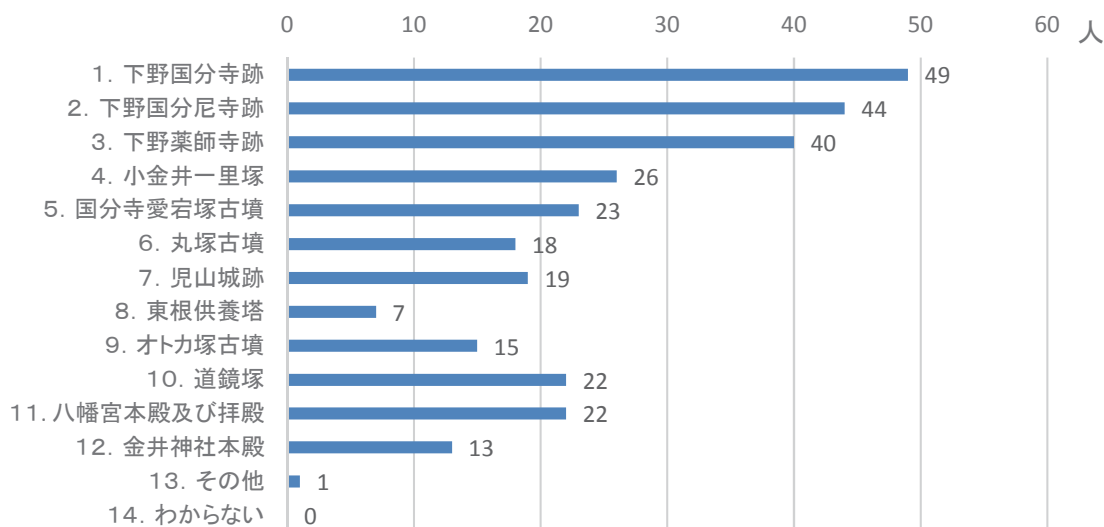
①下野市の文化財でまず思い浮かべるもの（複数回答）

下野国分寺跡、下野薬師寺跡、下野国分尼寺跡、小金井一里塚が上位4つであった。下野国分寺跡、下野薬師寺跡については27人で約50%、下野国分尼寺跡については23人で約40%、小金井一里塚については14人で約30%がまず思い浮かべる文化財と回答している。この他、道鏡塚も約20%の回答を集めた。



②下野市の文化財で訪れたことのあるもの（複数回答）

下野国分寺跡、下野国分尼寺跡、下野薬師寺跡、小金井一里塚が上位4つであった。上位4つの内容は「思い浮かべるもの」と同様であるが、「思い浮かべるもの」では3位であった下野国分尼寺跡が2位の下野薬師寺跡を上回った。下野国分寺跡は49人（94%）と、回答者のほぼすべてが訪れていた。

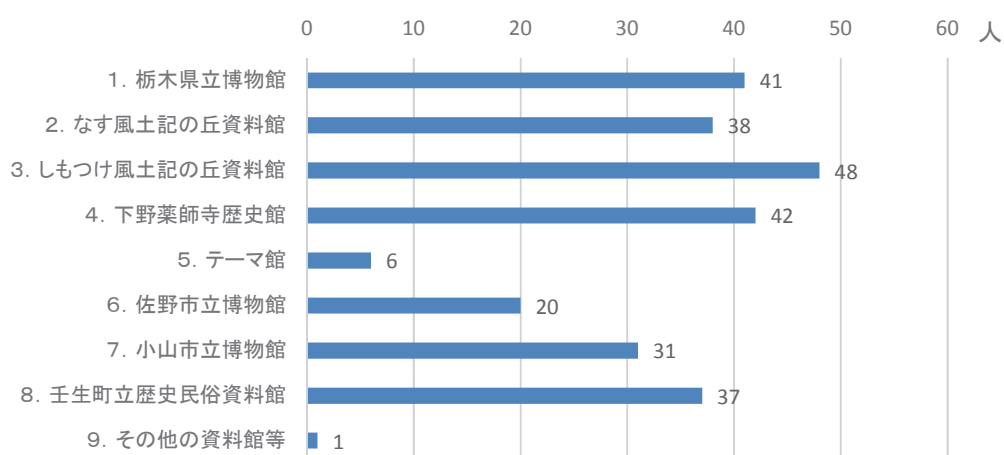


③過去5年以内に行った文化施設（複数回答）

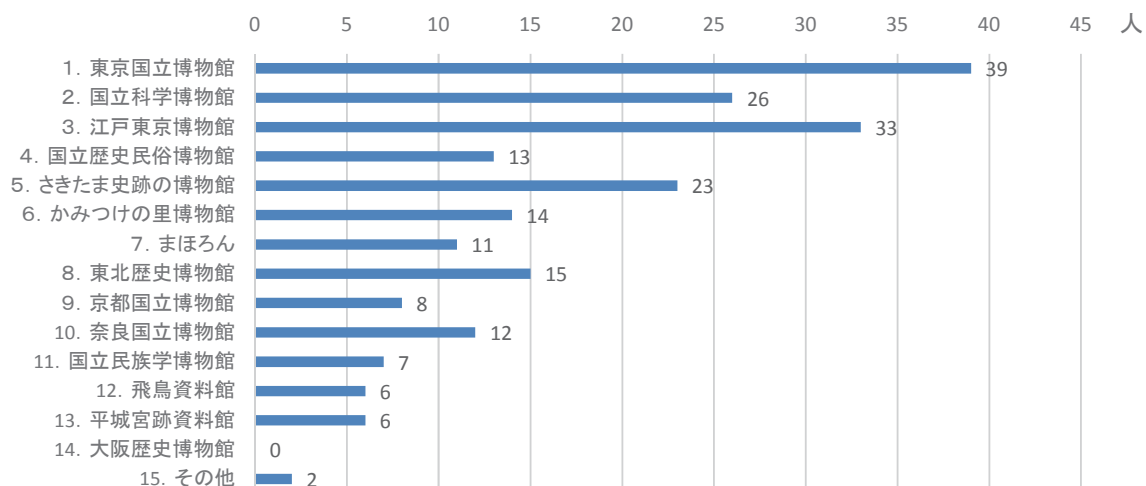
アンケート対象者が文化財に対する関心が高いことから、栃木県内・県外で様々な施設が回答にあがった。県内では講座が開催されたしもつけ風土記の丘資料館が48人と90%以上の回答を集め、下野薬師寺歴史館、栃木県立博物館、なす風土記の丘資料館、壬生町立歴史民俗資料館も70%から80%の回答を集めた。

また、県外では東京国立博物館が39人（75%）、江戸東京博物館が33人（63%）のほか、国立科学博物館が26人（50%）、さきたま史跡の博物館が23人（44%）であった。奈良国立博物館、東北歴史資料館のような関東地方以外に所在する施設にも20%から30%の回答者が訪れていた。

■栃木県内

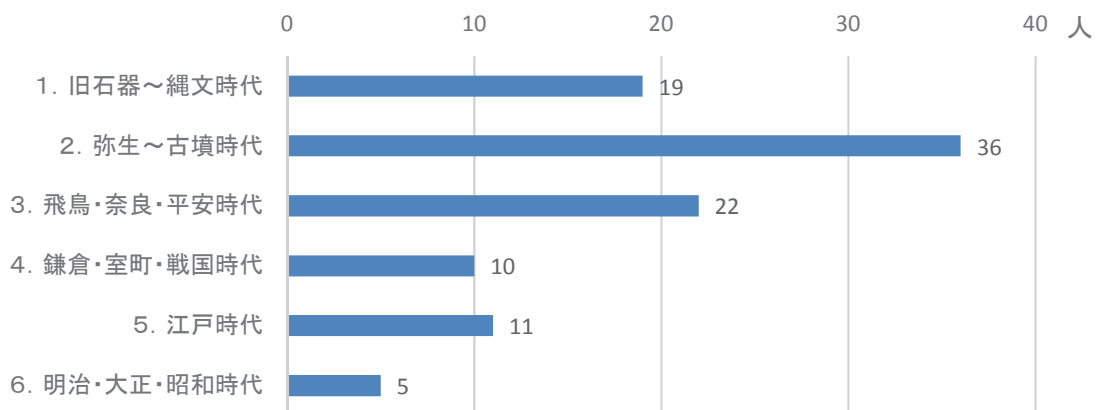


■栃木県外



④下野市の歴史の中で興味がある時代（複数回答）

弥生時代～古墳時代が 36 人（69%）、飛鳥・奈良・平安時代が 22 人（42%）、旧石器～縄文時代が 19 人（37%）の順であった。中世や近世に比べ、原始・古代に関する興味が非常に高い結果となった。

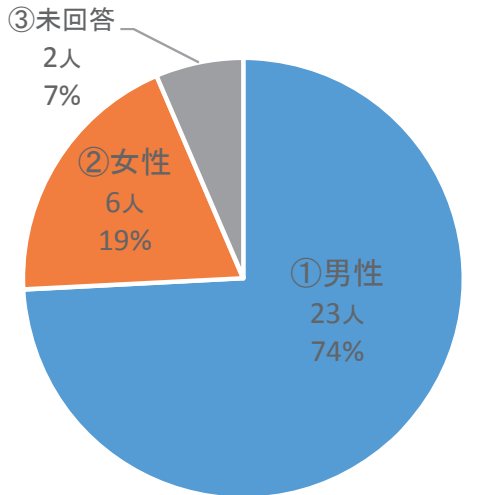


【平成 28 年度のアンケート】

平成 27 年度と少し設問内容を変えてアンケートを実施した。

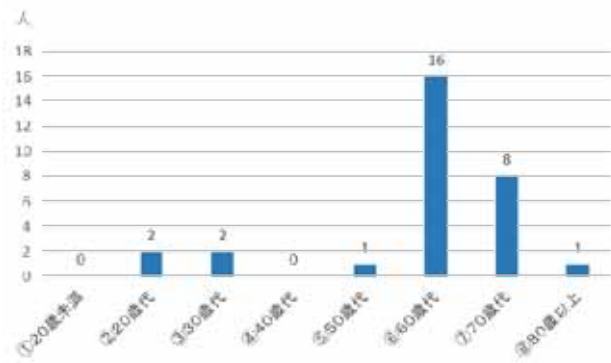
■性 別

女性 19%、男性 74%で、約 70%が男性であった。



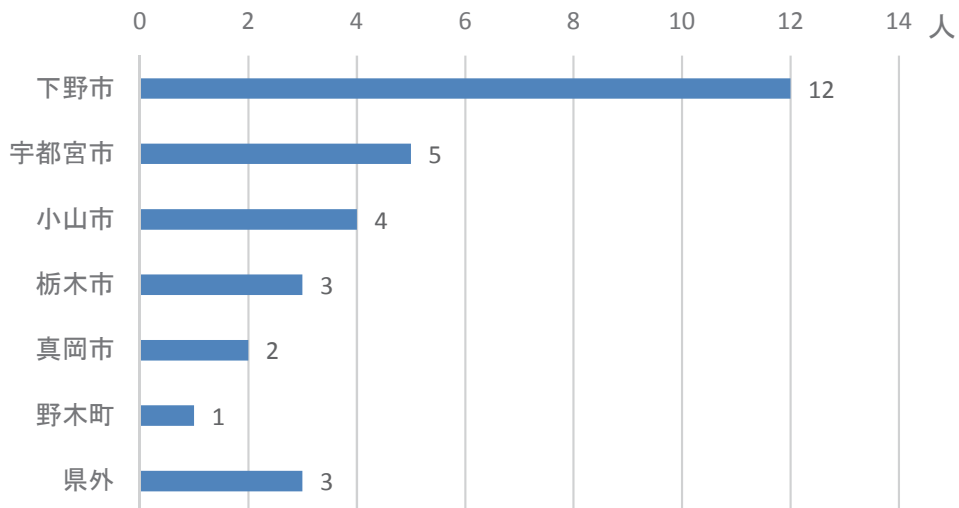
■年 齢

60 歳代が 16 人、70 歳代が 8 人と、全体で約 80%を占め、対照的に他の年齢層は非常に少ない結果となった。



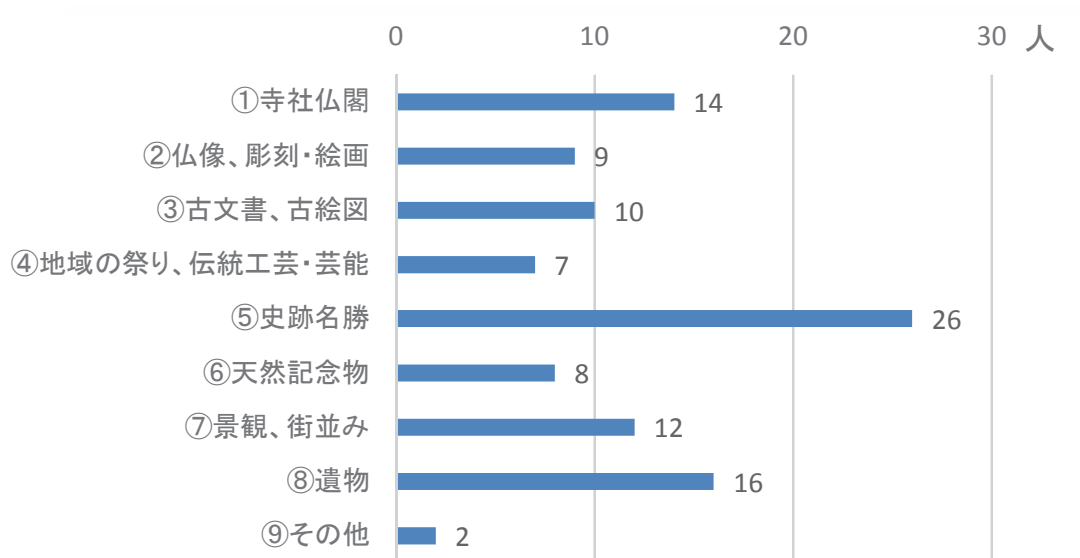
■居住地域

市内が 12 人 (39%) と最も多く、市外は宇都宮市 5 人 (16%)、小山市 4 人 (13%) と続いた。県外からの参加者は 3 人 (10%) おり、平成 27 年度と同様に、講座に興味があれば遠方からも訪れることがわかった。



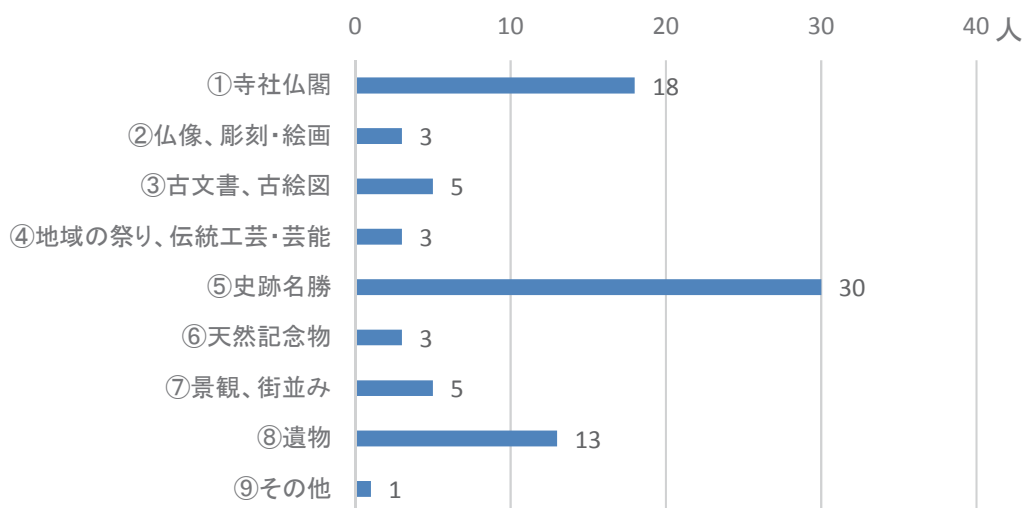
① 興味のある文化財

「史跡名勝」の回答が26人(84%)で最も多く、次いで「遺物」が16人(52%)、「寺社仏閣」が14人(45%)と多かった。下野市は史跡、出土遺物など埋蔵文化財に関する文化財が多い傾向にあるため、本市にとって非常に有利な結果といえる。



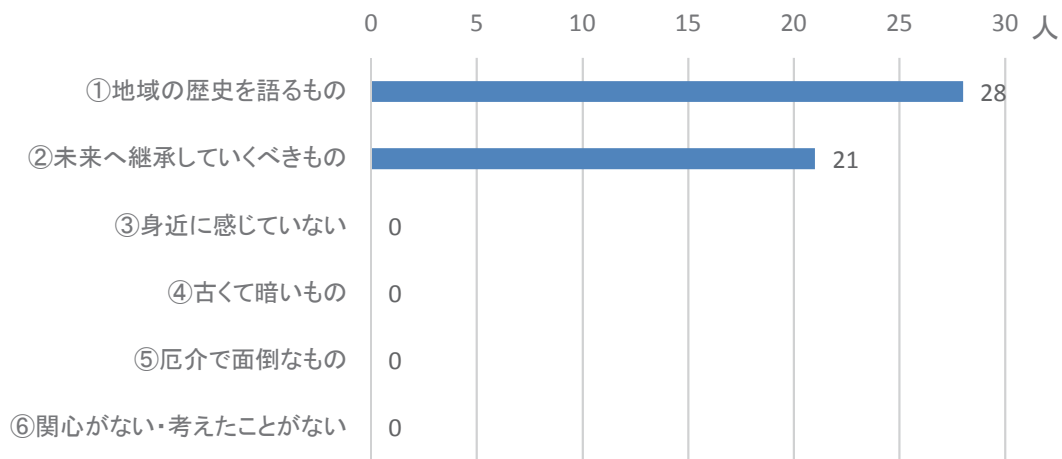
② 下野市らしい文化財

前項と同じく「史跡名勝」の回答が30人(97%)と非常に多く、講座参加者のほぼすべてが「史跡名勝」と回答していた。次に「寺社仏閣」が18人(58%)、「遺物」が13人(42%)と続き、上位の項目は「興味のある文化財」と重なっていた。その他の項目について回答した数は少なく、3人から5人程度にとどまった。



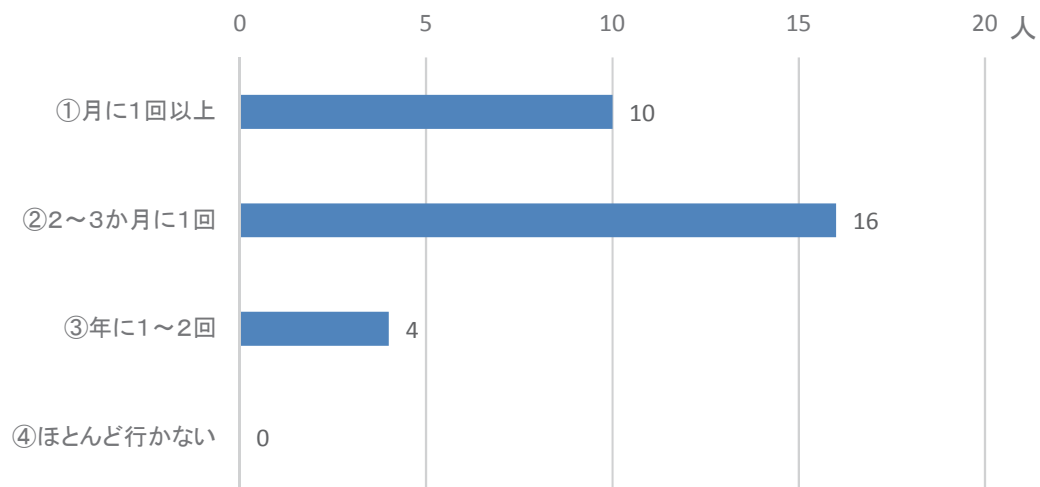
③ 「文化財」のイメージ

「地域の歴史を語るもの」は28人(90%)、「未来へ継承していくべきもの」は21人(68%)の回答があった。この2項目の回答のみで、他の項目は0人であった。マイナスイメージを持つ回答が全くなかったことから、講座に参加をするような文化財に興味のある層は、「文化財」に対するイメージを非常にプラスと捉えていることがうかがえる。



④ 文化施設に訪れる頻度

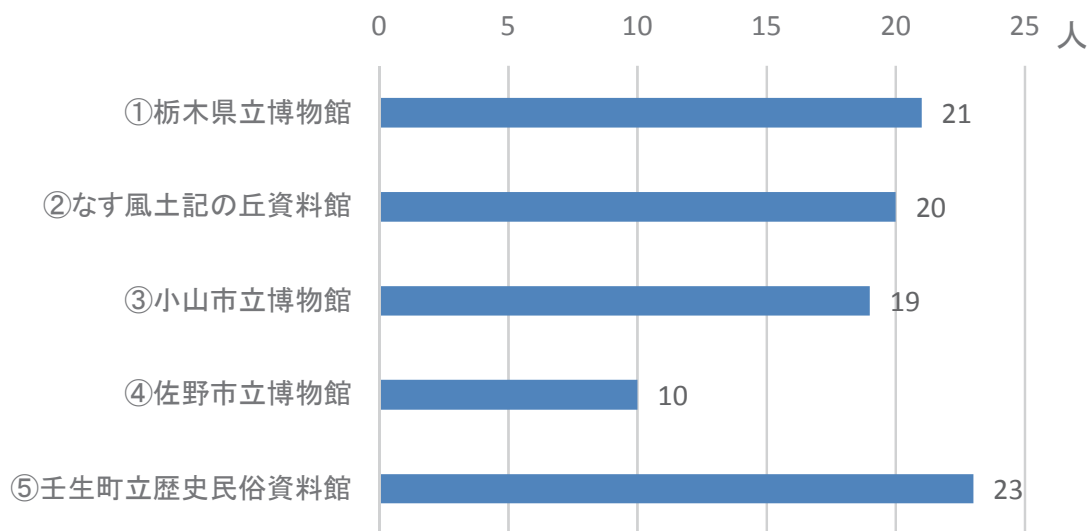
「2～3か月に1回以上訪れる」という回答が16人(51%)、次いで「月に1回以上」が10人(32%)という結果になった。この2項目で80%以上を占めており、博物館などの文化施設に関心が高いことがうかがえる。また、「ほとんど行かない」という回答は0人であり、回答者全員が1年のうち必ず1回は、文化施設を訪れているということがわかった。



⑤ 過去5年以内に行った文化施設（複数回答）

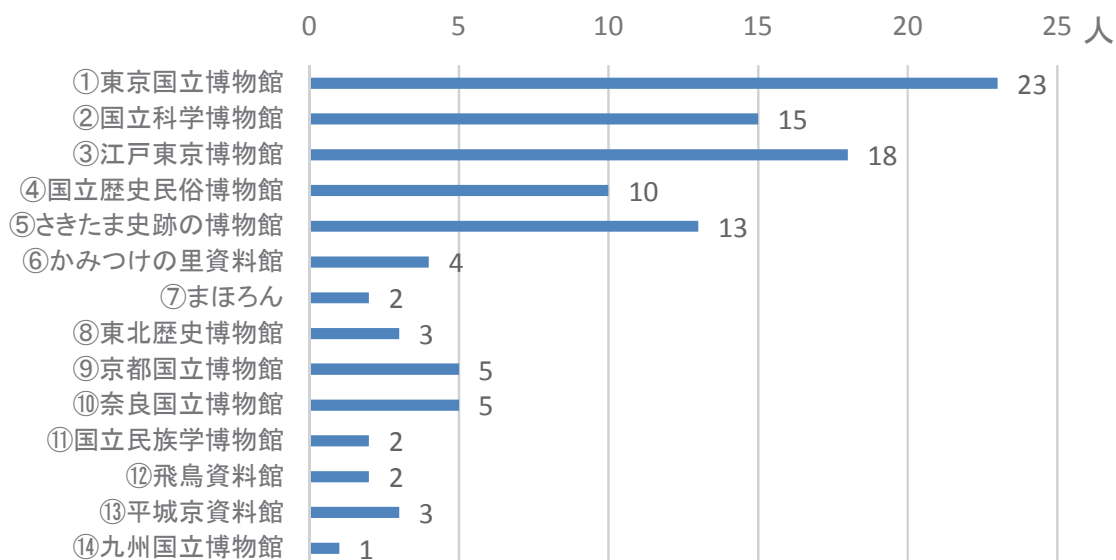
■栃木県内

壬生町立歴史民俗資料館に行ったことがあると回答した人数は23人（74%）と最も多いが、県立博物館は21人（68%）、なす風土記の丘資料館は20人（65%）、小山市立博物館は19人（61%）の回答となり、大きな差は見られなかった。下野市、宇都宮市、小山市からの参加者が多いことが結果に反映されたと考えられる。



■栃木県外

東京国立博物館と回答した人数が23人（74%）と最も多かった。10人以上の回答があった文化施設は、国立科学博物館（15人、48%）、江戸東京博物館（18人、58%）国立歴史民俗博物館（10人、32%）、さきたま史跡の博物館（13人、42%）の4館だが、回答が多い施設は関東地方に固まった結果となった。一方、どの項目にも1人以上の回答があることから、興味関心があれば全国各地の施設に訪れるということもわかった。



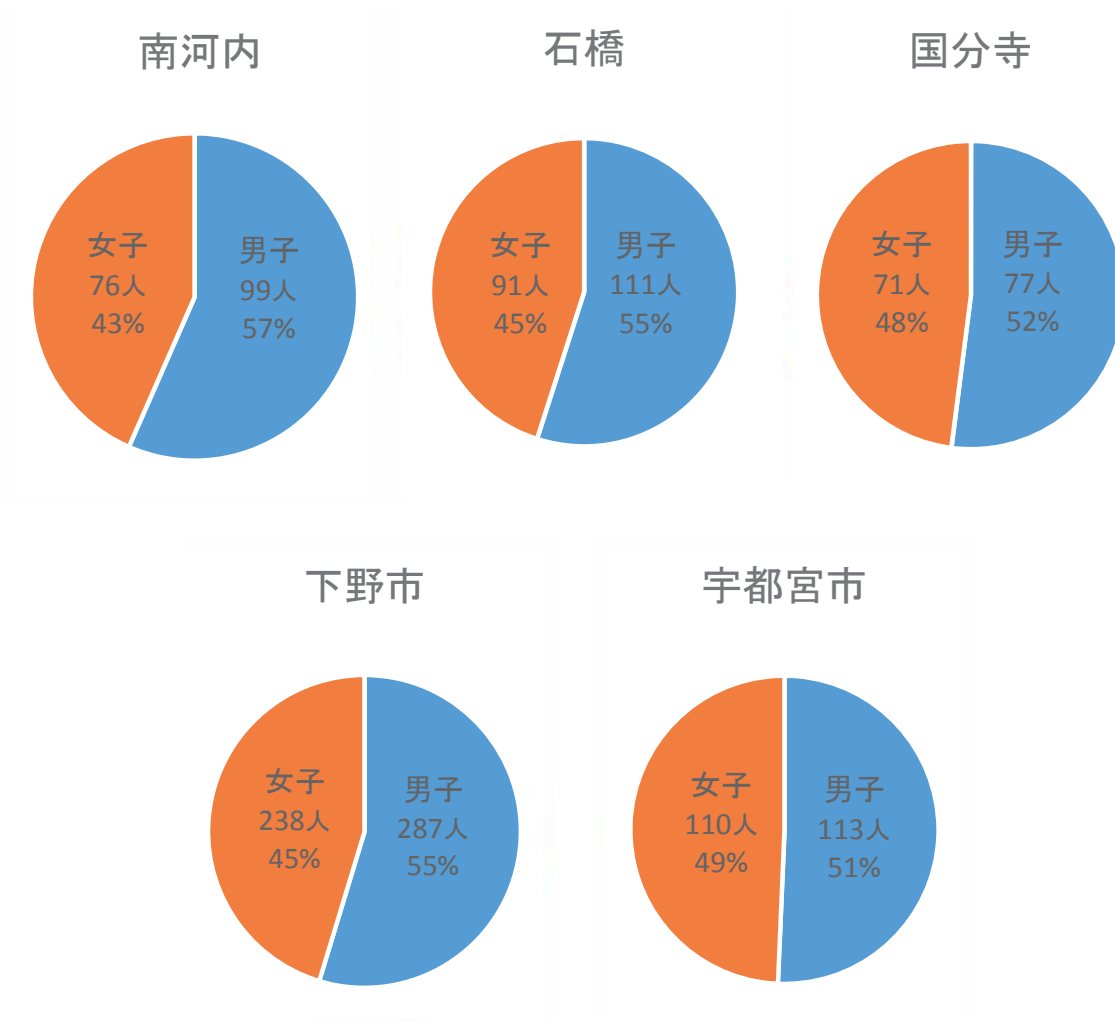
3) 小学6年生における文化財等についてのアンケート結果

■調査対象

しもつけ風土記の丘資料館に見学で訪れた宇都宮市の小学6年生 223名 (2校)
市内小学6年生 525名 (12校)

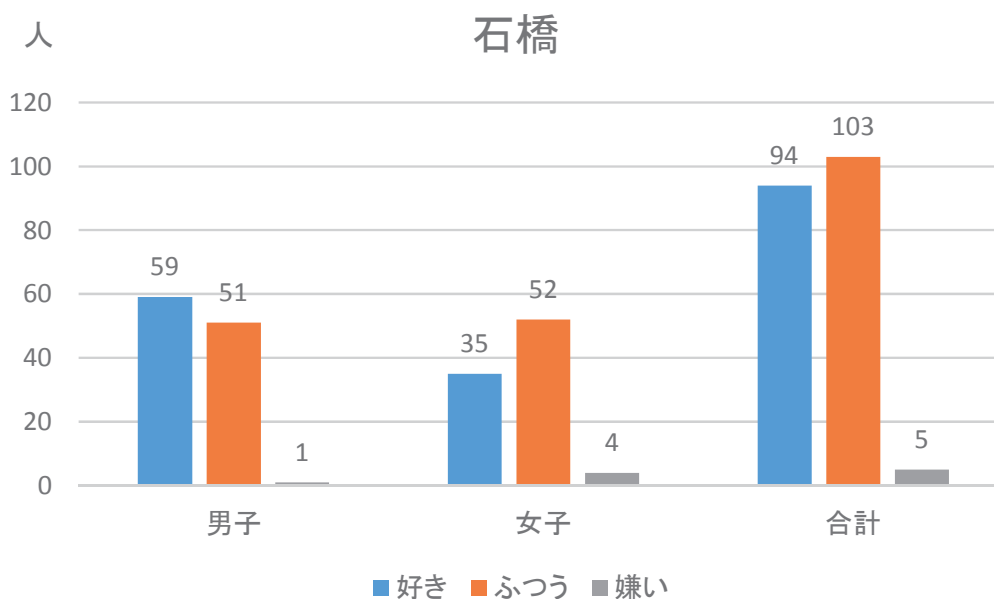
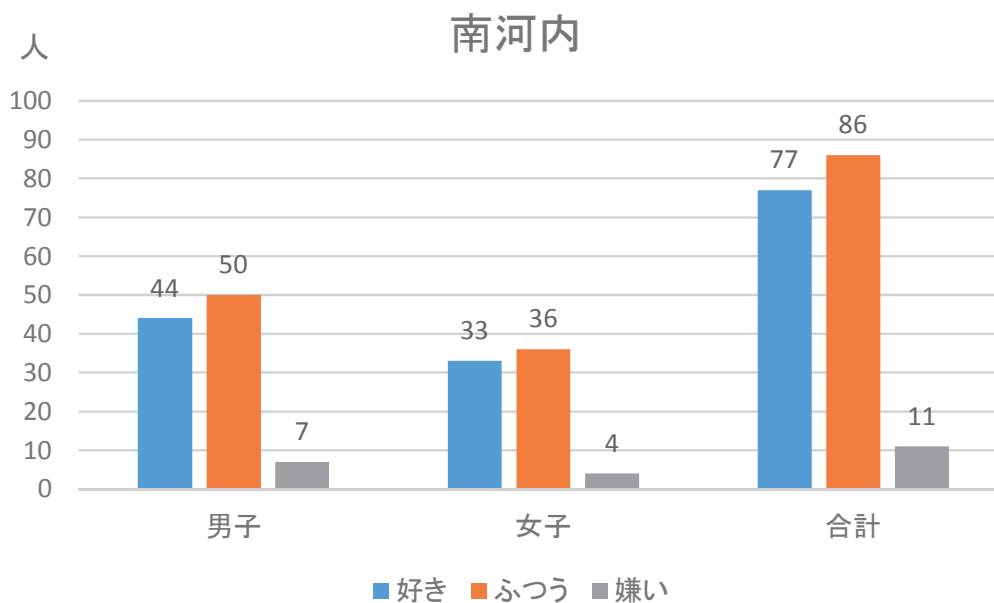
質問1 あなたの性別は？

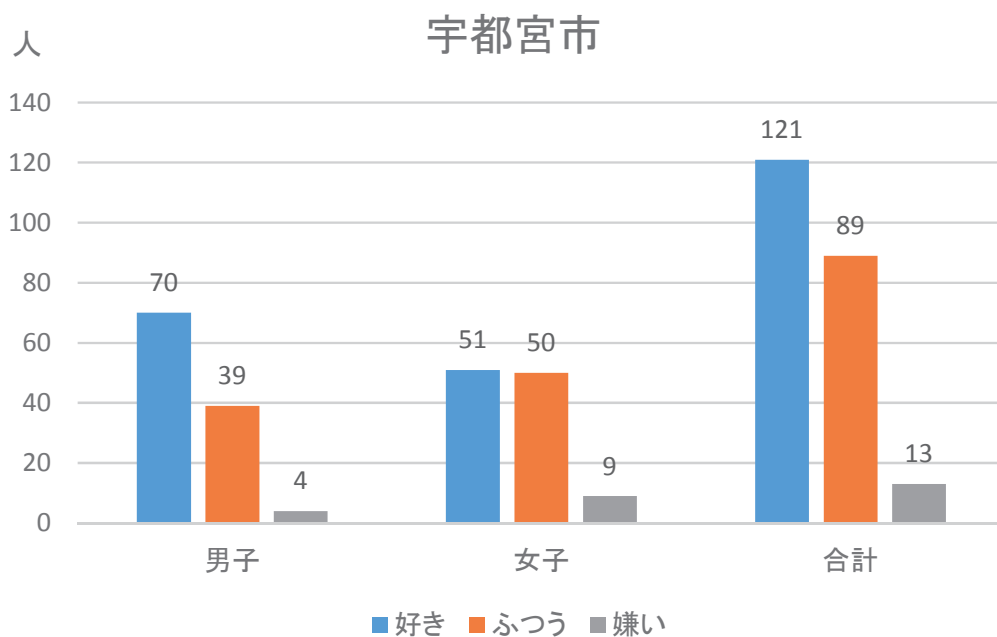
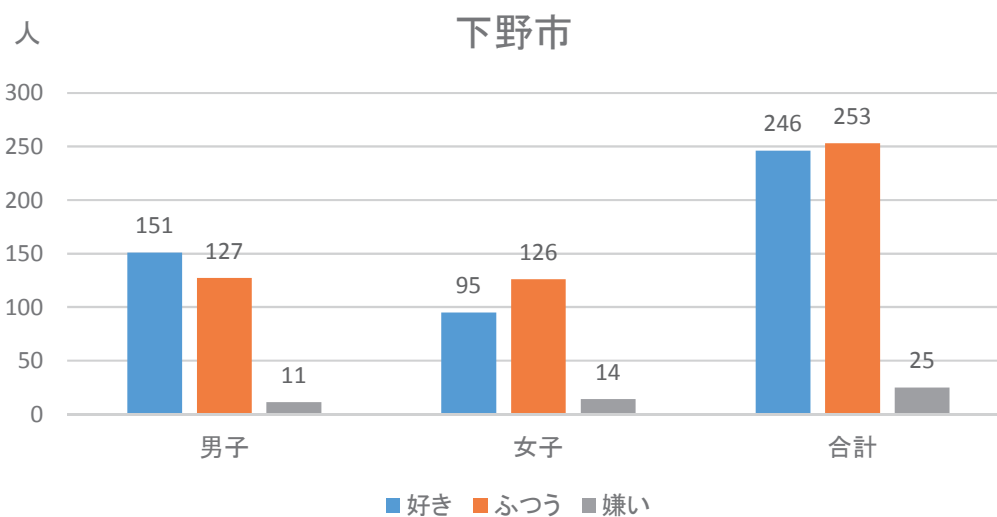
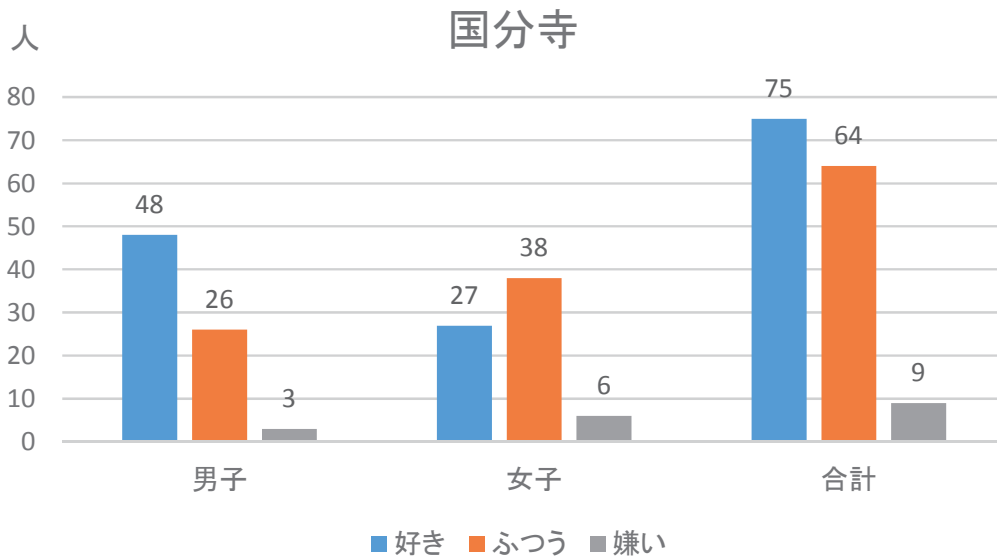
下野市 525名の内訳は、男子 287名、女子 238名。宇都宮市 223名の内訳は男子 113名、女子 110名である。地区別、市別ともに男子が50%台、女子が40%台でまとめ、若干男子の方が多い結果となった。



質問2 歴史の学習は好きですか？

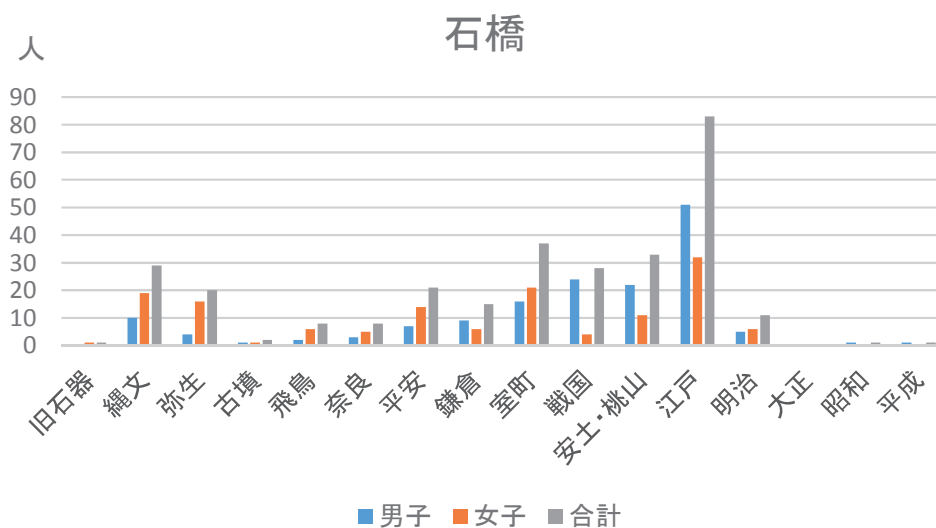
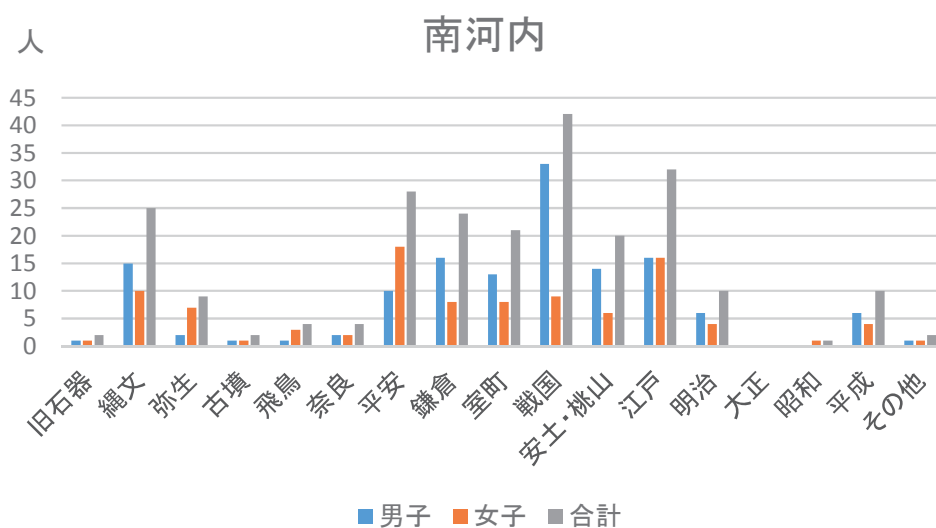
男子の方が女子よりも「好き」の回答が多い傾向にあり、より歴史に興味があることがうかがえる。合計数では地区別、市別ともに「好き」または「ふつう」の割合が非常に高かった。これらのことから、歴史に苦手意識をもつ児童は、小学6年生の時点で少数と見られる。文化財担当として、下野市、宇都宮市の双方とも、今後一層歴史が「好き」な児童の割合を増やせるような工夫が必要であると考ええる。

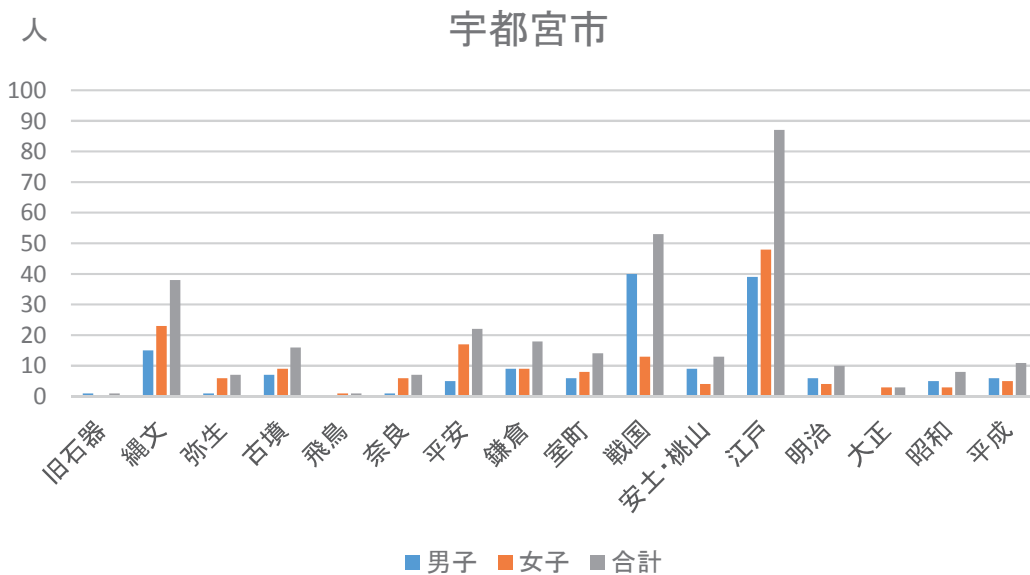
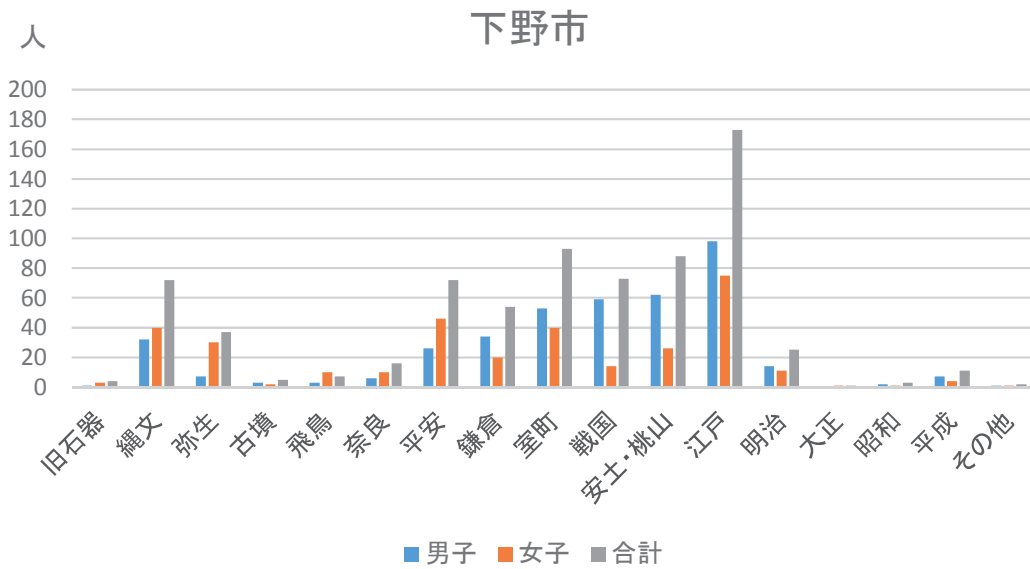
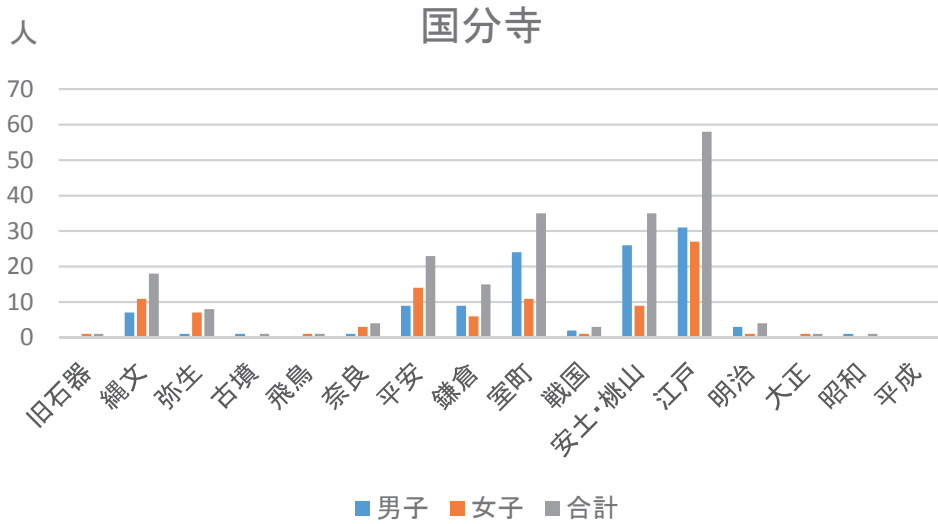




質問3 歴史の中で、何時代が好きですか？（複数回答）

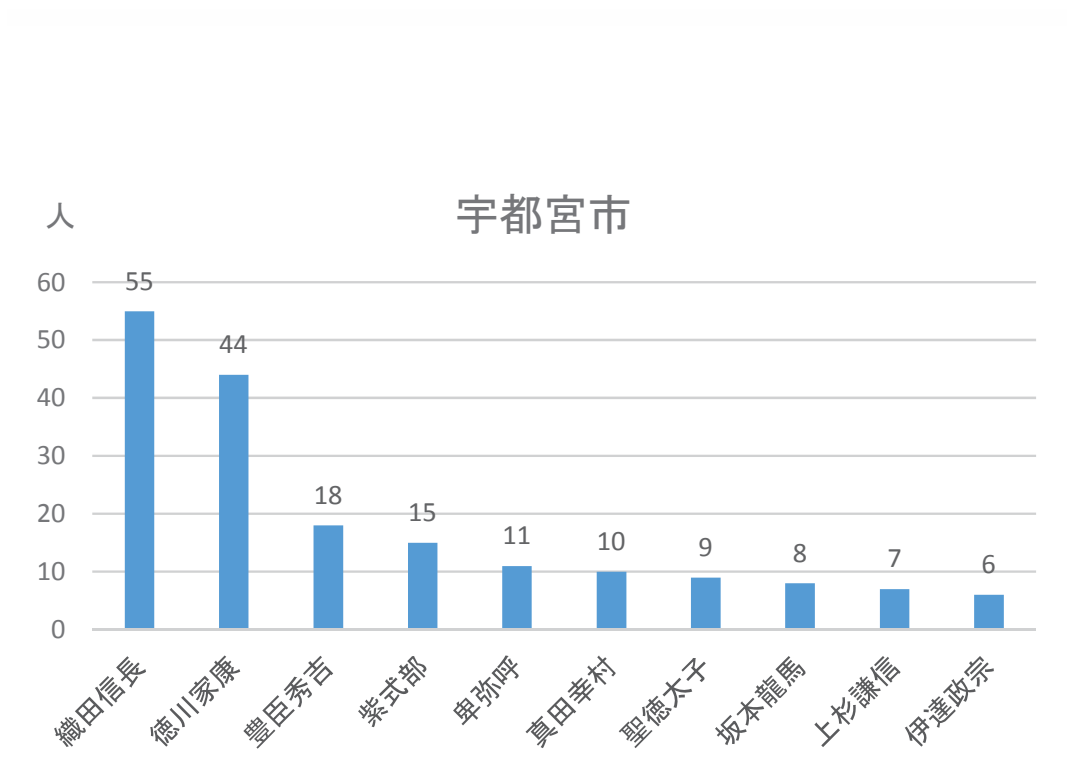
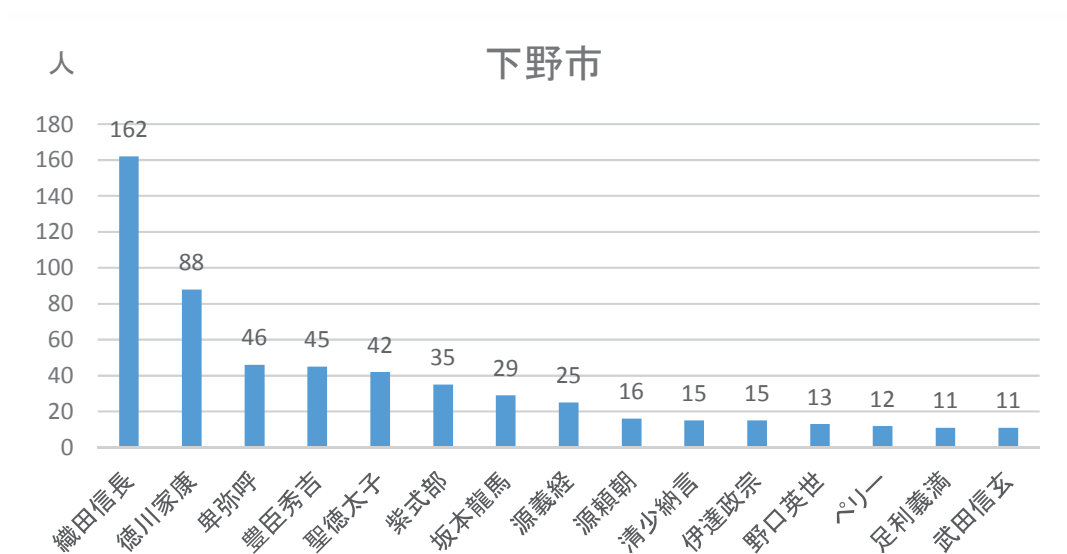
先史時代においては、旧石器～縄文時代にかけてグラフが上昇し、弥生時代に下降する。平安時代以降は、戦国時代と安土・桃山時代のどちらを選ぶかといったように地域によって差があるが、おおむね江戸時代にかけてグラフが上昇傾向にあるといえる。特に回答者数が少なかったのは、古墳～奈良時代と明治時代以降であった。このことから、本市の文化財のメインとなる古墳～奈良時代に興味が薄いことがわかった。性別でみると男子は鎌倉～江戸に集中し、女子は奈良・平安・江戸が多い。質問2と合わせて、歴史全体が好きと感じているのは男子だが、古代に興味を持つのは女子の方が多いことが読み取れた。

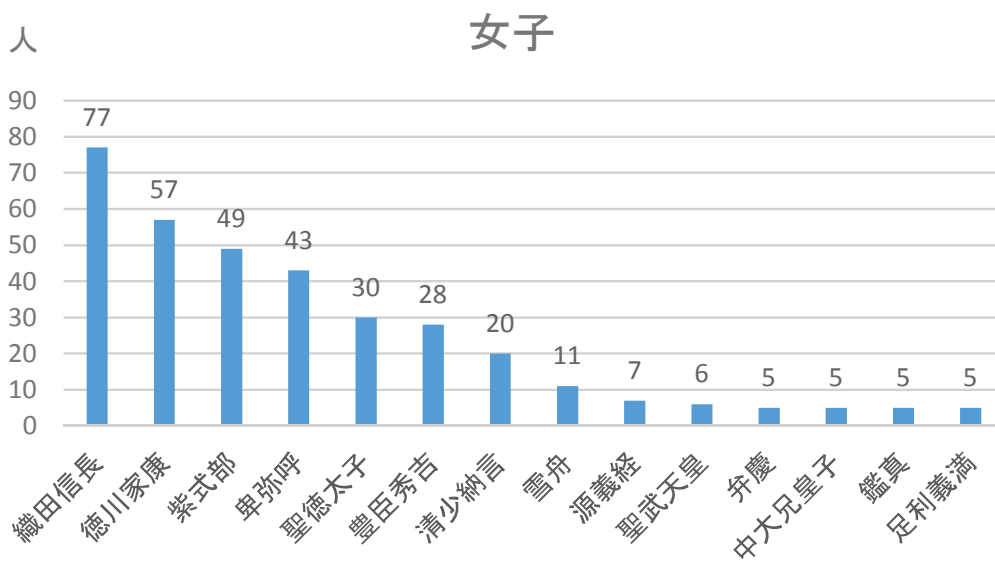
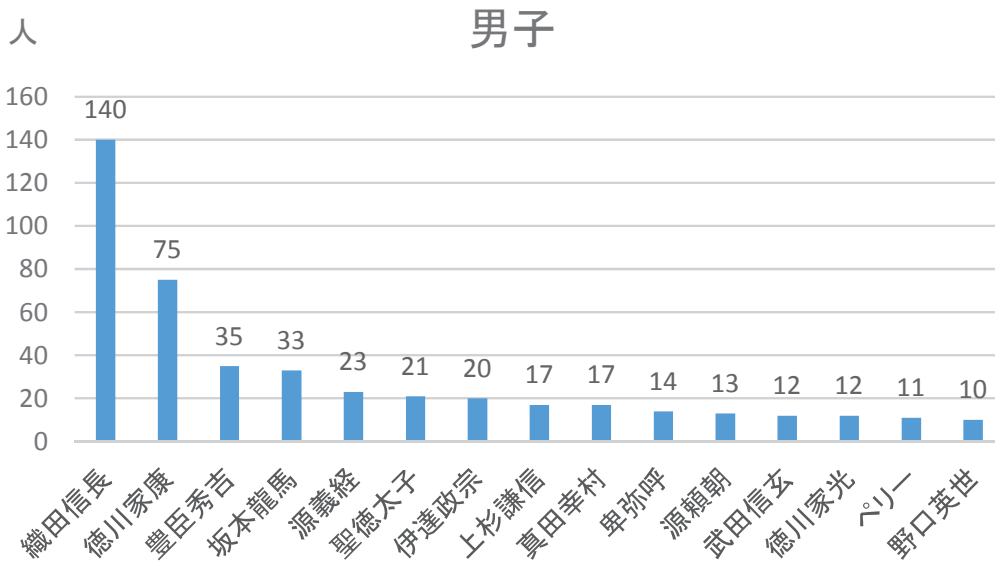




質問4 歴史上の人物で好きな人は？（複数回答）

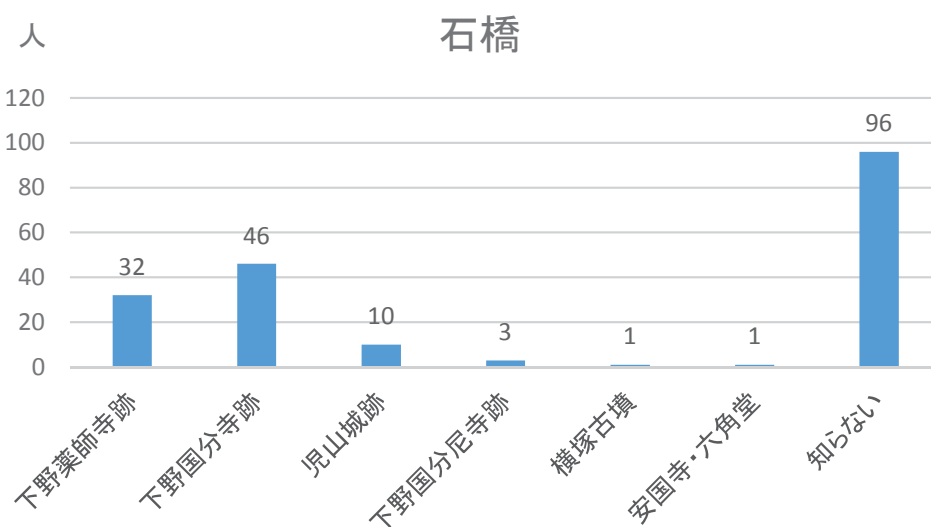
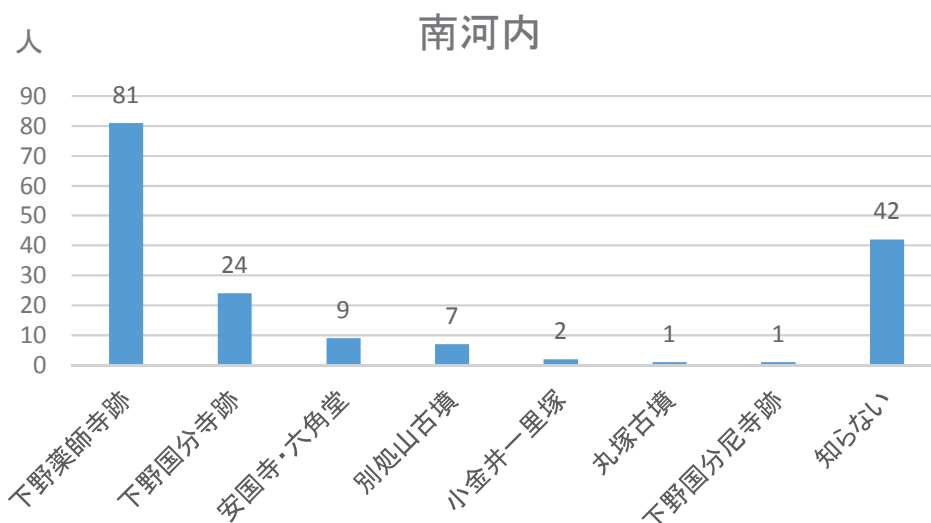
「織田信長」の回答数が最も多く、次いで「徳川家康」、「豊臣秀吉」の回答数が多かった。知名度の高い人物が上位に入り、知名度がそのまま結果が反映されたかたちとなった。また、歴史上の女性で多く回答を得たのは「卑弥呼」であった。本市と宇都宮市を合計し、男女別にグラフを作成したところ、男子は戦国武将や幕末に活躍した人物を選ぶ傾向が見られた。特に「織田信長」と回答する人数が非常に多かった。一方、女子になると「紫式部」、「清少納言」、「卑弥呼」など歴史上の女性を選ぶ傾向にあると見られる。

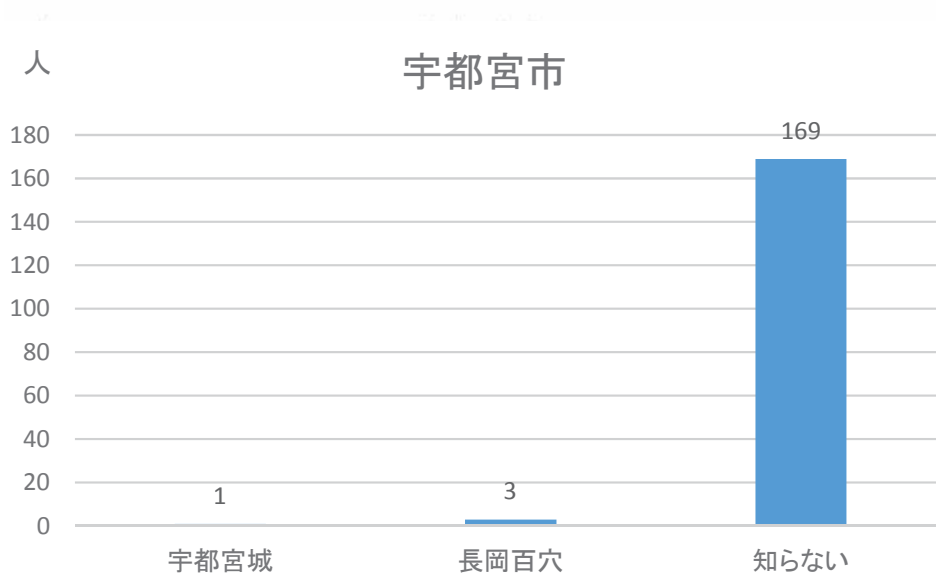
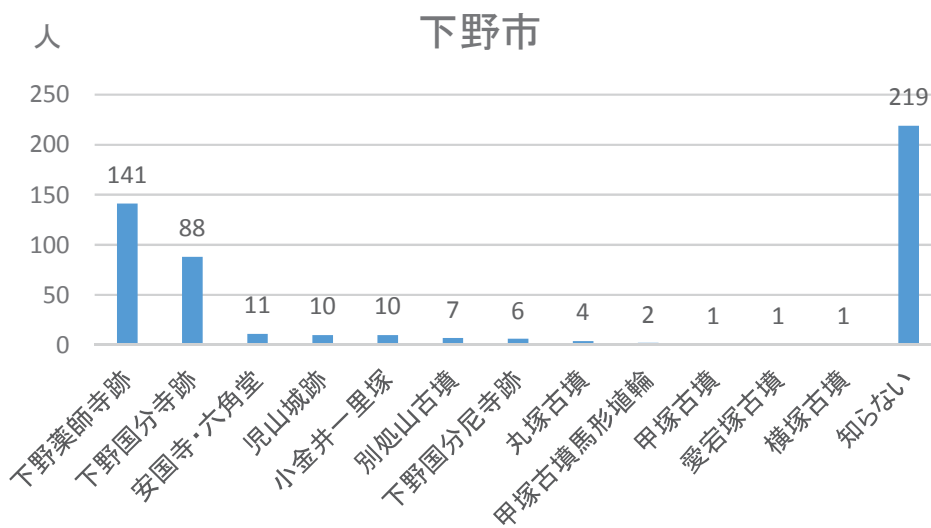
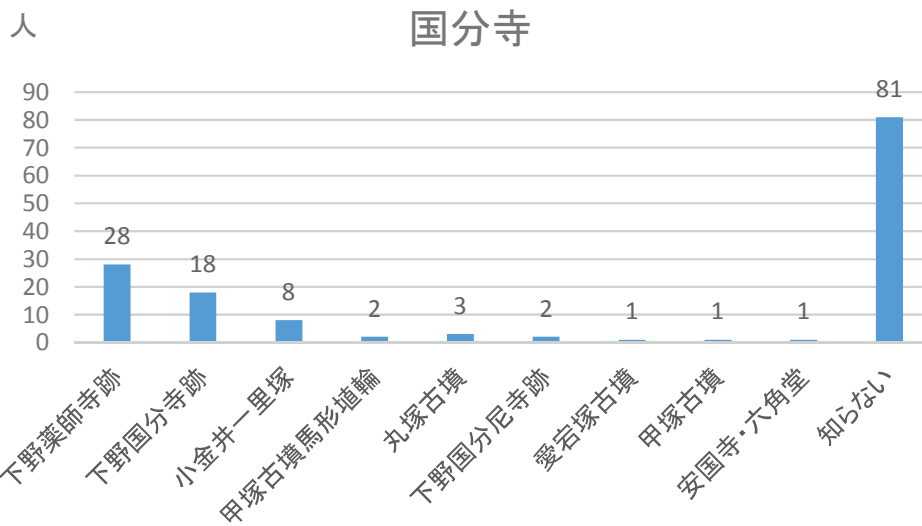




質問5 あなたの街で知っている「文化財・遺跡など」を記入してください。(複数回答)

地区ごとでみると、南河内地区の小学生は南河内地区、石橋地区は石橋地区、国分寺地区は国分寺地区の文化財・遺跡をそれぞれ挙げている。特に南河内地区では「下野薬師寺跡」と回答した人数が81人と、約40%の児童が「下野薬師寺跡」を知っているという結果になった。「知らない」という回答がどの地区でも大きな割合を占めてはいるが、市内では全体的に歴史教育が浸透し始め、特に自分の住む地区の遺跡に対する理解が深まってきていると考えられる。また、市内においては「下野薬師寺跡」という回答が141人(26%)で最も認知度が高く、同じく国指定史跡の「下野国分寺跡」、「下野国分尼寺跡」とは大きな差が見られた。



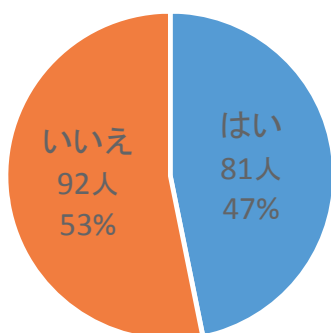


質問6 学校の授業以外で、博物館・資料館などに行きましたか？

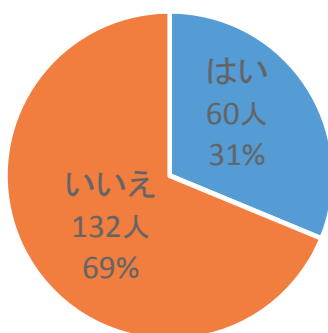
質問7 6で「はい」と○を付けた方 行ったところを覚えていれば記入してください。

どの地域においても「いいえ」の回答が50%を超える結果となった。市別でみると、市内の方が博物館に行く児童が少なく、博物館自体に興味薄いことがうかがえる。そのため、市内資料館のPR、イベント、企画展等が必要であると考え。また、自分の住む市にある博物館・資料館には出かける傾向が見られるが、今後、県全域での交流も考えていきたい。

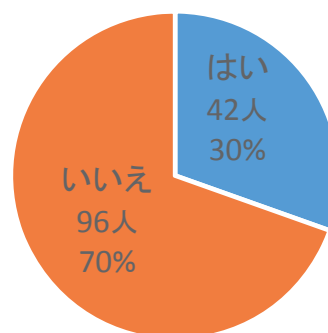
南河内



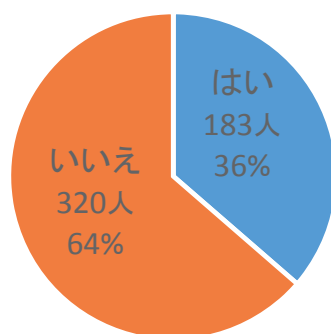
石橋



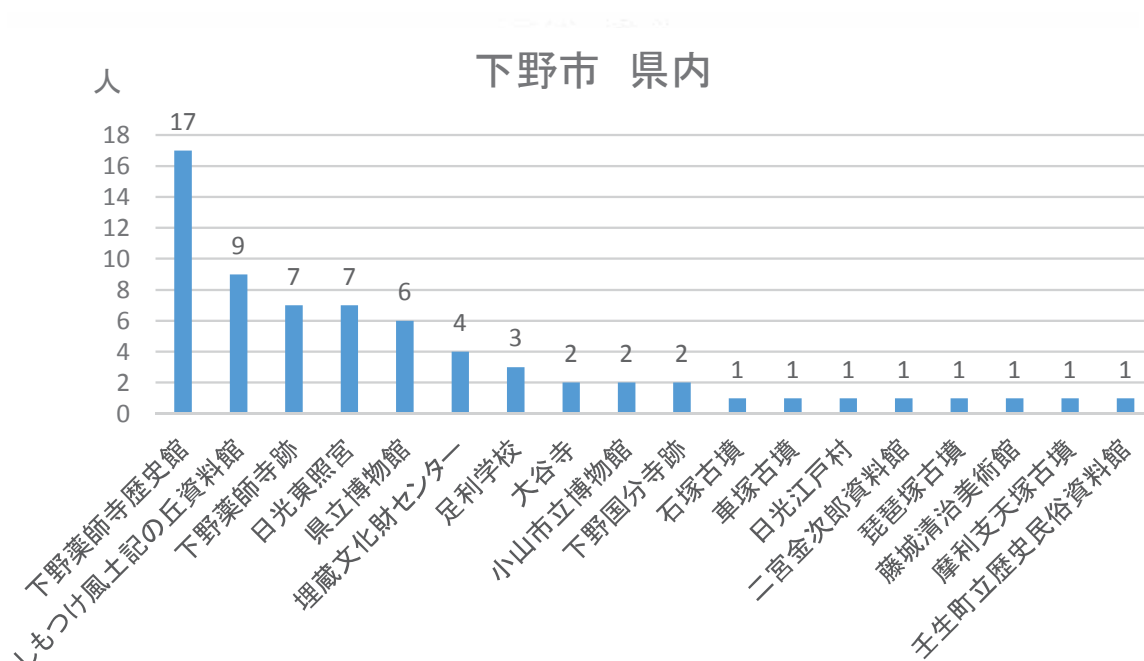
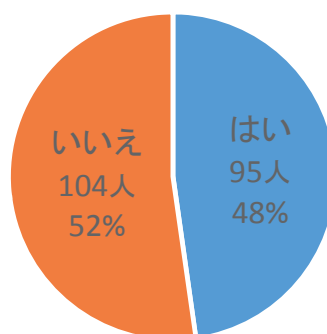
国分寺

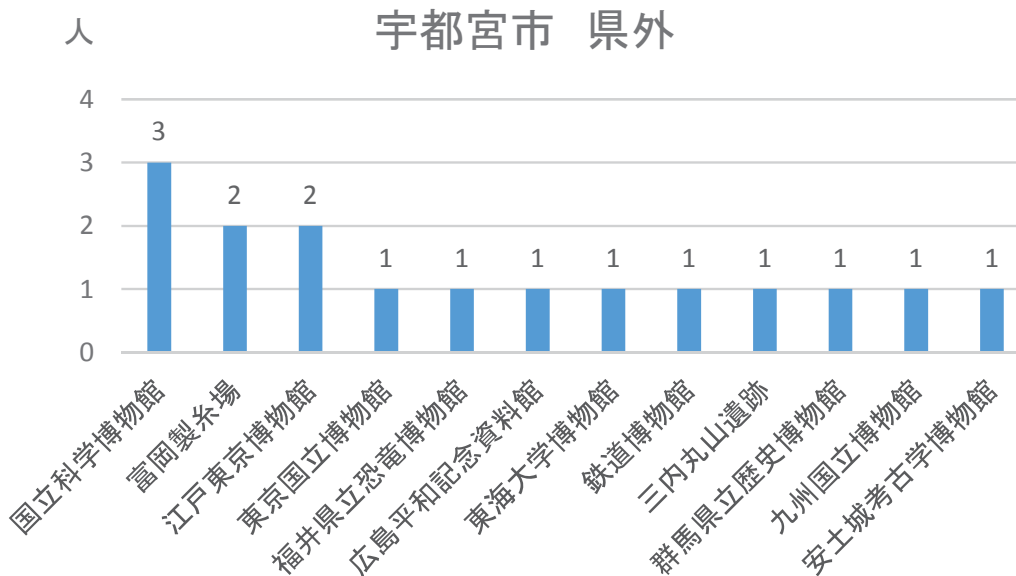
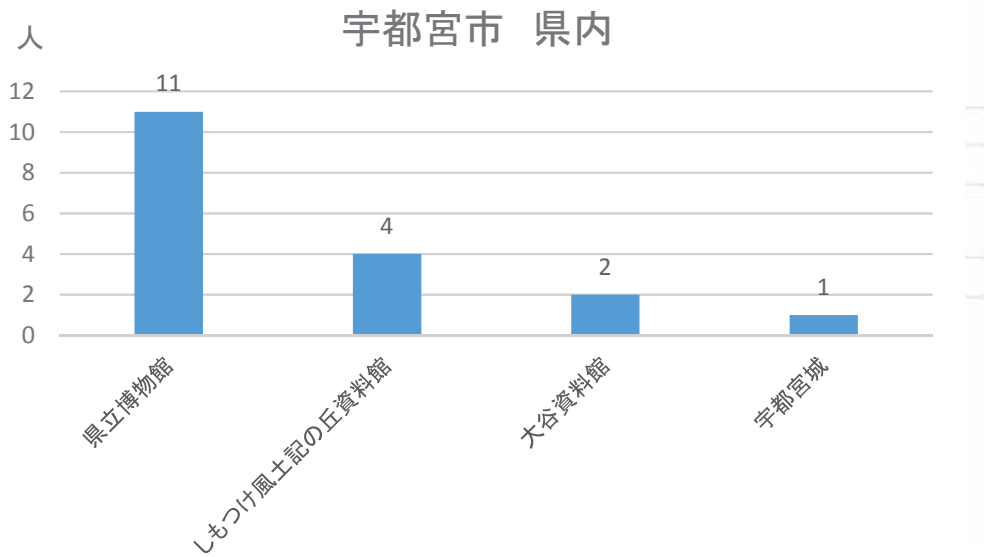
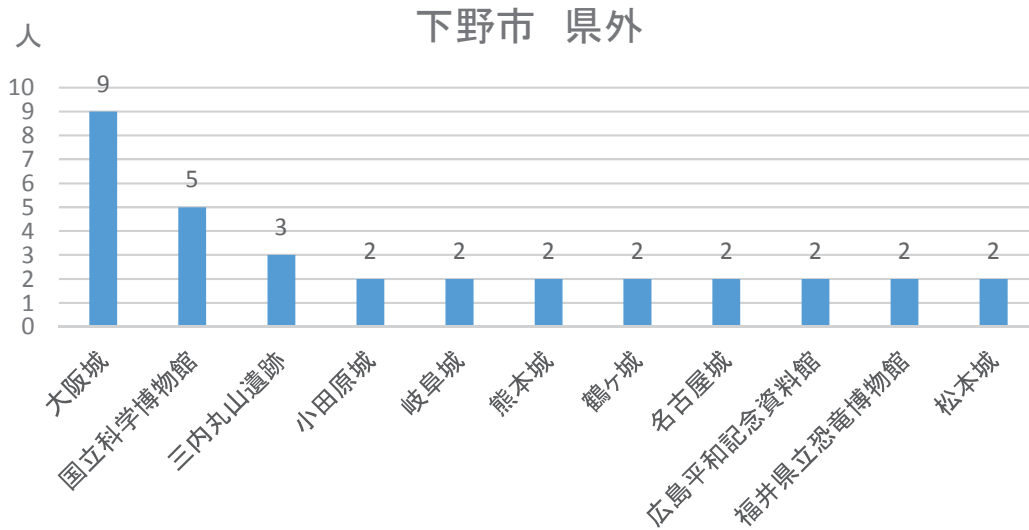


下野市



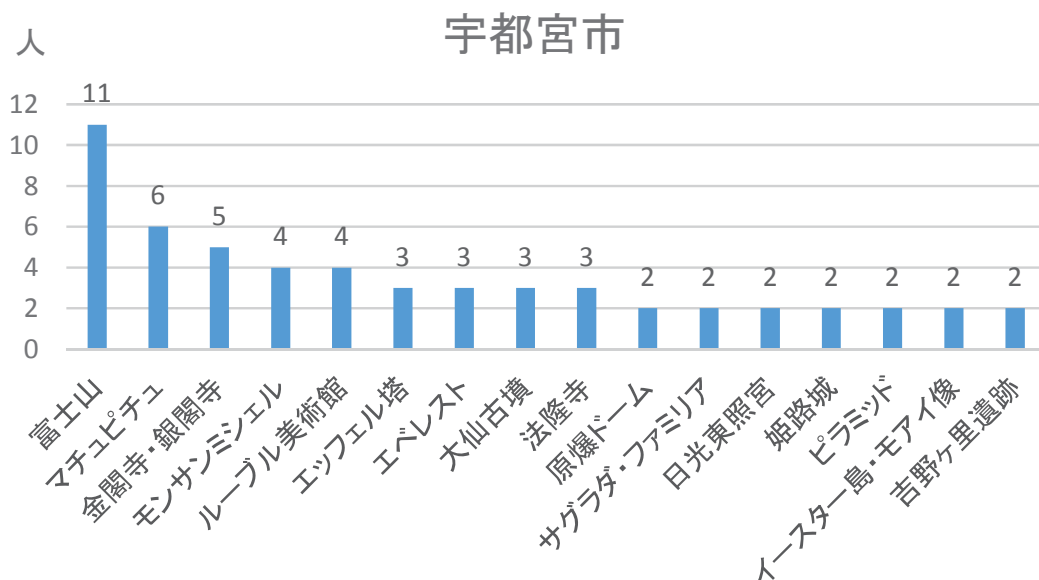
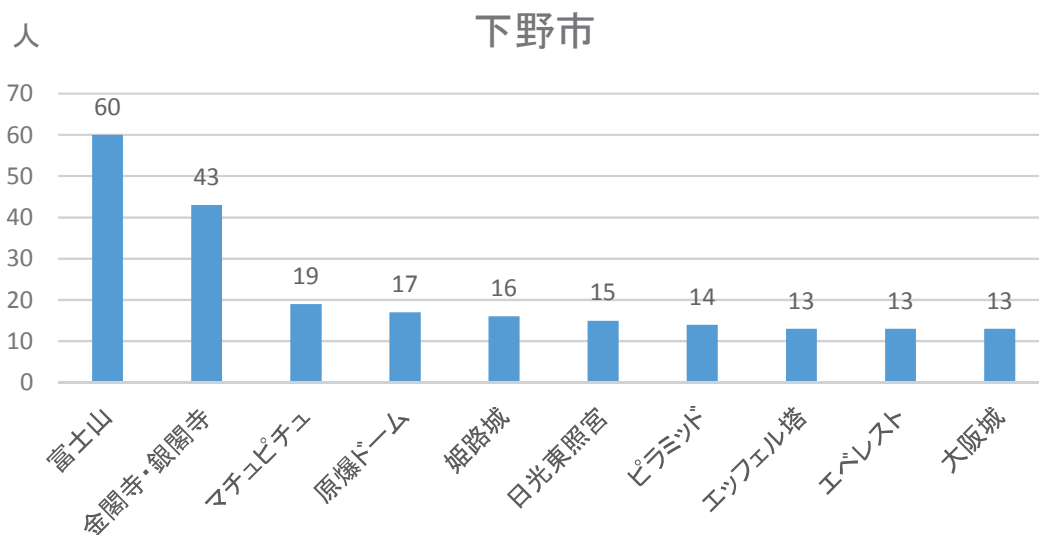
宇都宮市





質問8 将来、行ってみたい世界遺産・博物館や遺跡などがあれば記入してください。(複数回答)

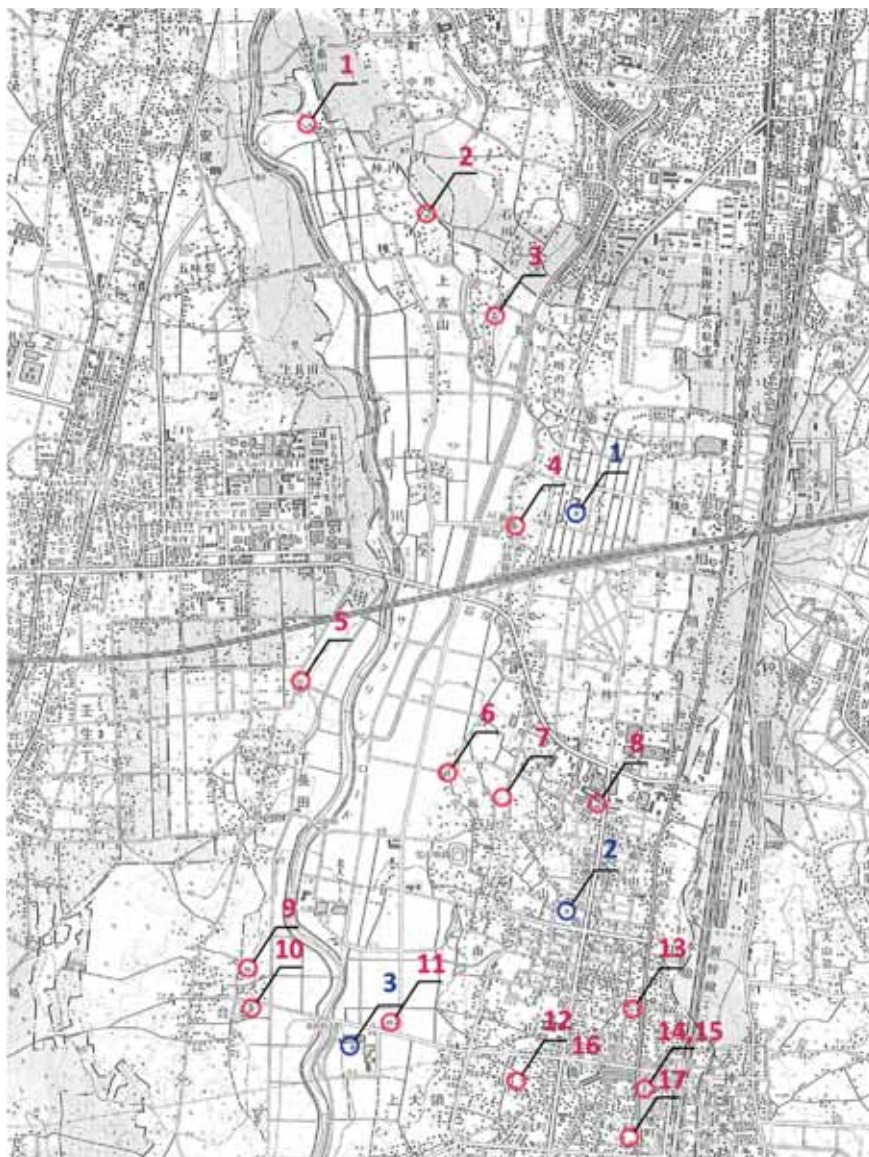
どちらの市でも「富士山」と回答した人数が最も多く、次いで「金閣寺・銀閣寺」、「マチュピチュ」が2位または3位と回答数が多い結果となった。「富士山」については元々の知名度に加え、一昨年世界遺産になったことを受けての人気と考えられる。また、外国の世界遺産、自然遺産、城、寺院、戦争関連遺産など、多種多様な回答が得られた。



2. 未指定文化財リスト

平成 21～23 年度の 3 か年で、神社仏閣等に所在する文化財や学校保管の文化財を対象に文化財悉皆調査を実施した。その結果、再調査が必要な箇所もあるが、約 300 点の文化財を確認した。以下に調査対象地一覧と現在判明している未指定文化財のリスト（社寺・学校保管分）を掲載する。

【地区 1】



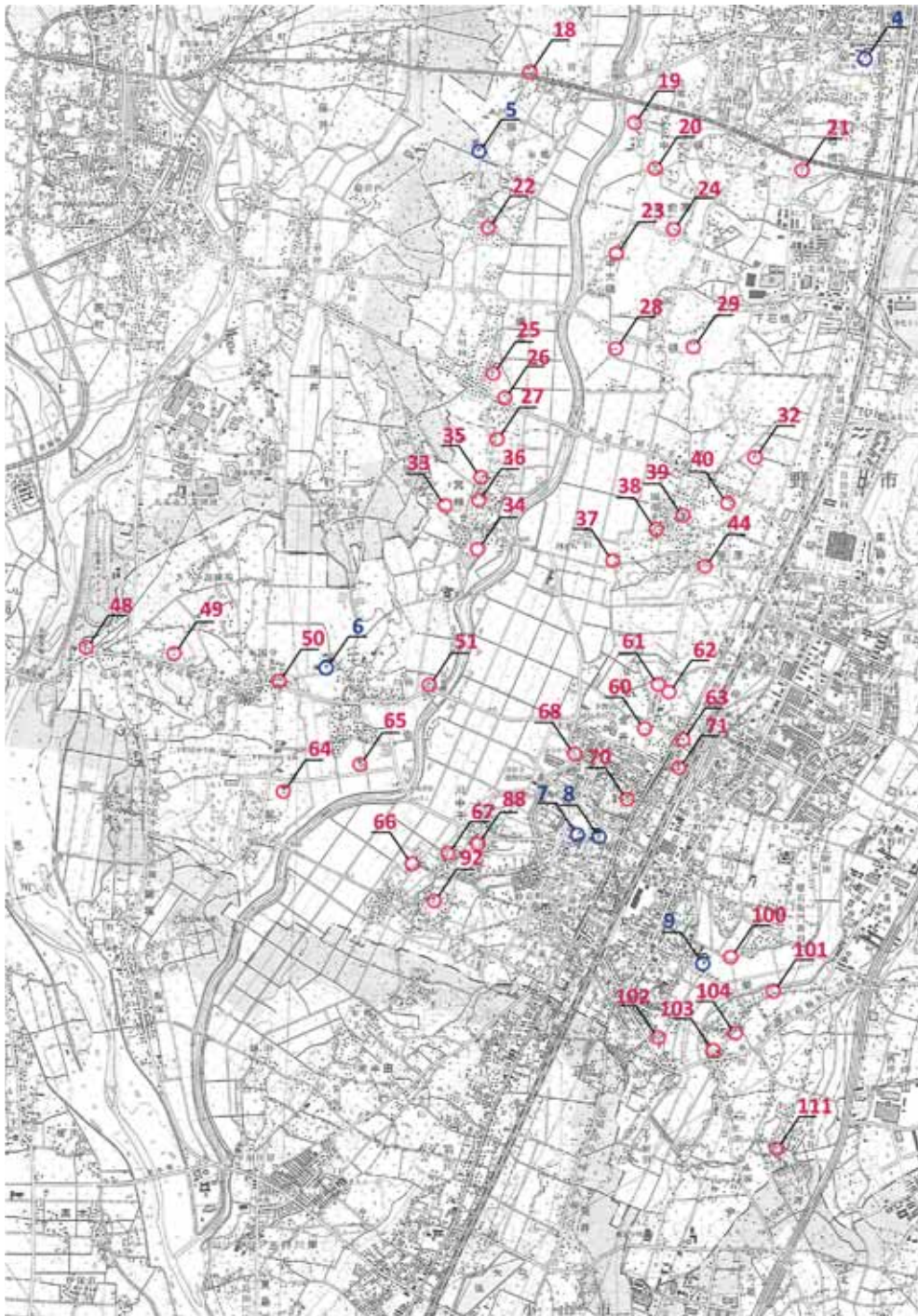
【社寺】

1	権現神社	7	観音堂	13	名称不明
2	三嶋神社	8	三宮神社	14	子育稲荷社
3	東明神社	9	星宮神社	15	名称不明
4	古山神社	10	上台釈迦堂	16	名称不明
5	長田神社	11	孝謙天皇神社	17	愛宕神社
6	星宮神社	12	名称不明		

【小中学校】

1	石橋北小
2	古山小
3	石橋中

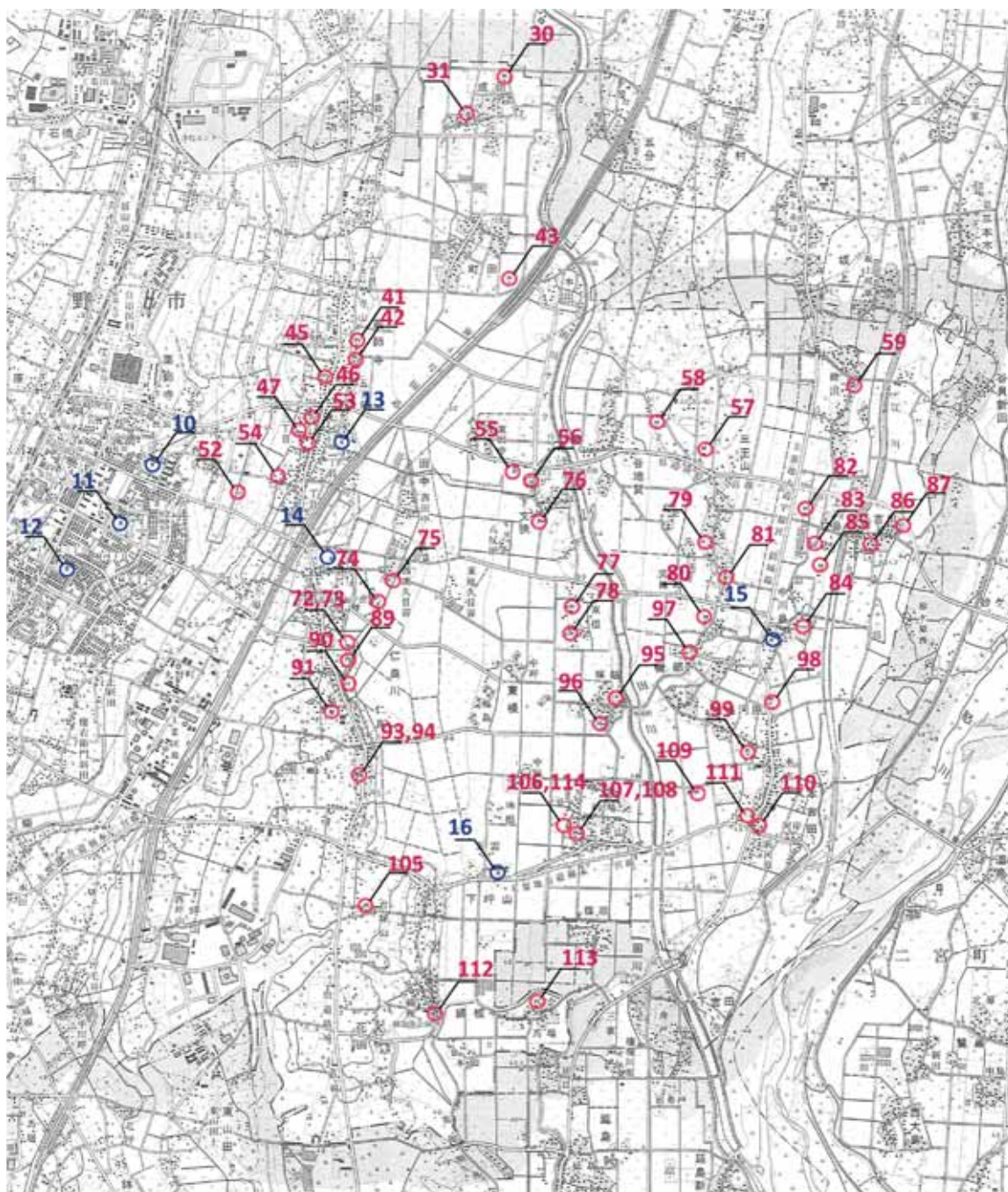
【地区2】



【社寺】

18	星宮神社	33	愛宕神社	60	大山神社	100	三光神社
19	雷電神社	34	磐裂根裂神社	61	権現稲荷大明神	101	星宮神社
20	星宮神社	35	日枝神社	62	川越大越神社	102	惣の宮神社
21	星宮神社	36	名称不明	63	上町薬師堂	103	柴南薬師堂
22	名称不明	37	小金井八景橋神社	64	龍神社	104	稲荷神社
23	名称不明	38	名称不明	65	川西薬師堂	111	諏訪神社
24	東前原観音堂	39	観音堂	66	古泉山馬頭観音堂	【小中学校】	
25	橋本薬師堂	40	稲荷神社	67	成就院	4	石橋小
26	橋本神社	44	子育て蔵堂	68	八龍神	5	細谷小
27	鷺宮神社	48	蓮華寺	70	金井神社	6	国分寺西小
28	名称不明	49	愛宕神社	71	蓮行寺	7	国分寺中
29	星宮神社・八坂神社	50	国分寺	88	星宮神社	8	国分寺小
32	三嶋神社	51	川西神社	92	八幡宮	9	国分寺東小

【地区3】



【社寺】

30	星宮神社	59	八坂神社	86	孫太郎大明神不動尊	108	日光三神社
31	妙光寺	72	滝尾台地藏尊	87	天満宮神社	109	東権現神社
41	薬師寺八幡宮	73	南無大日如来	89	愛宕神社	110	不動尊
42	雷電神社	74	名称不明	90	大杉神社・八坂神社	112	絹板百体観音
43	星宮神社	75	稻荷大明神	91	満福寺	113	八幡宮
45	八坂神社	76	春日神社	93	仁良川薬師堂	114	常光院跡
46	二月堂	77	鷲宮神社	94	大杉神社・八坂神社	115	名称不明
47	名称不明	78	観音堂	95	塚越薬師堂		【小中学校】
52	愛宕神社	79	加波山神社	96	阿弥陀如来堂	10	祇園小
53	稻荷大明神	80	磯部神社	97	阿弥陀如来堂	11	南河内第二中
54	白山神社	81	朝日観音堂	98	本吉田八幡宮	12	緑小
55	八龍神社	82	星宮神社	99	今宮神社	13	薬師寺小
56	稻荷神社	83	薬師堂	105	星宮神社	14	南河内中
57	愛宕神社	84	観音堂	106	東福寺	15	吉田西小
58	星宮神社・八坂神社	85	星宮神社	107	坪塚稻荷神社	16	吉田東小

社寺内文化財一覧

NO.	名称	所在地	地区	文化財等
1	権現神社	上古山	1	鈴(拝殿)
6	星宮神社	下古山	1	横塚古墳出土遺物、カシカ(幹回り2.4m)
7	観音堂	下古山	1	木造の観音像あり
8	三宮神社	下古山	1	石燈籠
9	星宮神社	上台	1	燈籠、狛犬、鈴等多数
10	上台釈迦堂	上台	1	銀杏の木(3.7m)、鰐口等
11	孝謙天皇神社	上大領	1	五輪塔、明治天皇代拝碑等
13	名称不明	石橋	1	手洗(文久2年)、大願成就の碑
16	名称不明	石橋	1	ケヤキ(3.6m)
17	愛宕神社	石橋	1	愛宕塚古墳石室凝灰岩、石仏・石塔類多数
18	星宮神社	細谷	1	本殿棟札あり、狛犬・燈籠・鳥居等
19	雷電神社	中大領	1	手洗・燈籠・狛犬等
21	星宮神社	下石橋	1	燈籠・狛犬等(昭和)、参道脇の小屋に仏像
24	東前原観音堂	東前原	1	掛仏か、鰐口、不動明王像
25	薬師堂	橋本	1	釈迦誕生仏、石製仏像、釈迦如来坐像、鏡(手鏡)
26	橋本神社	橋本	1	狛犬・鳥居・石仏等
27	鷲宮神社	箕輪	1	モミの木(国分寺町銘木百選)、石仏・石塔類
29	星宮神社・八坂神社	下大領	1	狛犬・鳥居等
30	星宮神社	成田	2	鳥居(木製)
31	妙光寺	成田	2	絵馬(時期不明)
32	三嶋神社	小金井	3	狛犬(昭和18年)、手水鉢・灯籠(皇紀2600年)等
34	磐裂根裂神社	箕輪	3	鳥居(昭和33年)
36	名称不明	箕輪	3	石塔(皇紀2600年)
37	小金井八景橋神社	小金井	3	昭和58年の由来碑
38	名称不明	笹原	3	鳥居
39	観音堂	小金井	3	石仏類
40	稻荷神社	笹原	3	鳥居
41	薬師寺八幡宮	薬師寺	2	絵馬(指定)等、イチョウ、手水鉢(天明5年)、寄進塔(寛文12年)、燈籠(文化14・明治3年)
44	子育地藏堂	笹原	3	鰐口
45	八坂神社	薬師寺	2	本殿江戸時代か
46	二月堂	薬師寺	2	鰐口3点
48	蓮華寺	国分寺	3	大蛇済度

49	愛宕神社	国分寺	3	本殿建立年確認
50	国分寺	国分寺	3	薬師堂に鰐口あり
51	川西神社	川中子	3	鈴等あり
52	愛宕神社	薬師寺	2	鳥居(寛政6年)
55	八龍神社	田中	2	石仏、鳥居(明治3年・不明)
57	愛宕神社	三王山	2	鳥居(銅製)、燈籠等
58	星宮神社・八坂神社	谷地賀	2	本殿は江戸期か、社標(大正8年)
64	竜神宮	紫	3	燈籠(大正9年)
65	川西薬師堂	川中子	3	鰐口、石仏多数
66	古泉山馬頭観音堂	川中子	3	鰐口
67	成就院	川中子	3	石仏多数
68	八龍神	小金井	3	燈籠・鳥居(新)、ケヤキ(2.6m)
70	金井神社	小金井	3	鳥居、狛犬等
77	鷲宮神社	東根	2	鳥居(大正2年)、燈籠(大正2年)
78	観音堂	東根	2	木造十一面観音立像、鰐口、額、絵馬等あり
80	磯部神社	磯部	2	鳥居(大正3年)
81	朝日観音堂	三王山	2	木造聖観音坐像
82	星宮神社	上川島	2	燈籠(明治21年)
83	薬師堂	上川島	2	鰐口
87	天満宮神社	上吉田	2	本殿彫刻、社標(大正13年)、燈籠(元治元・大正13年)
89	愛宕神社	仁良川	2	手水鉢(明治21年)、燈籠(文政10・明治29年)
92	八幡宮	川中子	3	鳥居(新)、石塔類
93	仁良川薬師堂	仁良川	2	薬師如来立像、日光・月光菩薩立像、十二神将立像、鰐口等、燈籠(明治5年)
95	塚越薬師堂	磯部	2	石仏、鰐口
96	阿弥陀如来堂	磯部	2	神輿
97	阿弥陀如来堂	磯部	2	鰐口
98	本吉田八幡宮	本吉田	2	社標(大正12年)、手水鉢(宝永7年)※指定文化財、手水鉢(明治13年)、鳥居(大正12年)、燈籠(文政元・大正12年)
103	柴南薬師堂	柴	3	石仏類、鰐口等確認
105	星宮神社	下坪山	2	手水鉢(明治13年)、鳥居(明治38年)、燈籠(嘉永・明治25年)
106	東福寺	上坪山	2	小堂に鰐口
108	日光三神社	上坪山	2	社標(昭和7年)、手水鉢(享保5年)、燈籠(弘化2・昭和7年)
111	諏訪神社	柴	3	鰐口等
112	絹板百体観音	絹板	2	鰐口
113	八幡宮	絹板	2	鳥居(大正2年)
114	常光院跡	上坪山	2	鰐口(文化12年)

学校保管文化財一覧

NO.	学校名	名称
2	古山小	絵画2点、鏡、二宮尊徳像
3	石橋中	絵画2点、時計台基礎
4	石橋小	石碑、書跡、菊の御紋入り杯(木箱入り)3点、銘板2点(内1点石製)、土器・瓦類一式、二宮尊徳像
5	細谷小	書跡、二宮尊徳像
6	国分寺西小	土器・瓦類一式、卒業証書類5点、門標3点、鐘、竿秤、絵画
8	国分寺小	火鉢2点、千歯こき2点、台秤、かんぴょうむき機、火打鎌、炭火アイロン、弁当箱(アルマイト製)、幻灯機、鐘、教材2点、銘板数点、古文書類一式、板碑10点、門柱1対、ヒマラヤスギ、シイ
9	国分寺東小	絵画3点、陶壁
10	祇園小	土器・瓦・埴輪等、ふくべ細工、陶壁
11	南河内二中	絵画2点、陶壁、書
13	薬師寺小	古文書類一式、教科書類8点、書2点、版画、薬師寺跡出土瓦8点、額、二宮尊徳像
14	南河内中	手ぬぐい、絵画、校歌額、陶壁、書2点、ブロンズ像、石碑
15	吉田西小	焼印「子来学舎之印」、角印「栃木県河内郡吉田尋常小学西校」他角印16点、タテ印「吉田尋常小学西校」、印箱、救急箱か、始業ベル、拍子木約20組、箱膳、地図2点(箱入り、軸装)、吉田村郷土誌、学校沿革史、古文書類一式、土器類一式
16	吉田東小	カキノキ、センダン、校歌額、書2点、絵画、陶壁、版画、絵皿、円筒埴輪、始業ベル、炭火アイロン、糸車、門柱(東門)1対

3. 下野市歴史文化基本構想策定のあゆみ

《下野市歴史文化基本構想策定の経過》

	開催年月日	内 容
1	平成 27 年 11 月 27 日	第 1 回策定検討委員会
2	平成 28 年 1 月 27 日	第 2 回策定検討委員会
3	平成 28 年 3 月 16 日	第 3 回策定検討委員会
4	平成 28 年 6 月 29 日	第 4 回策定検討委員会
5	平成 28 年 9 月 24 日	第 5 回策定検討委員会
6	平成 28 年 10 月 8 日	シンポジウムの開催
7	平成 28 年 11 月 8 日	第 6 回策定検討委員会
8	平成 28 年 11 月 11 日～ 11 月 25 日	パブリックコメントの募集
9	平成 28 年 11 月 29 日	第 7 回策定検討委員会



策定検討委員会の様子

《下野市歴史文化基本構想シンポジウム「歴史を活かしたまちづくり」》

下野市歴史文化基本構想策定の一環として、市民に向けて市の文化財や各地の取組について周知するシンポジウムを開催した。

○開催日時等 平成 28 年 10 月 8 日（土） 13：30～16：00 市庁舎 3 階会議室
参加者 75 名

○内容

1. 概要説明 「歴史文化基本構想について」 武川 夏樹氏（栃木県教育委員会）
2. 基調講演 「とちぎの文化財と史跡の活用について」
下野市歴史文化基本構想策定検討委員会 委員長 橋本 澄朗氏
(栃木県考古学会会長)



橋本氏による基調講演

3. パネルディスカッション

①連携事業を行っている自治体の文化財紹介

「下野市の文化財と活用」 山口 耕一（下野市教育委員会）

「壬生町における古墳を活かしたまちづくり」 君島 利行氏（壬生町教育委員会）

「下野薬師寺ボランティアの会」 杉谷 一男氏（下野薬師寺ボランティアの会会長）

「上三川町の文化財と活用」 深谷 昇氏（上三川町教育委員会）

②「広域的な文化財の活用と市民協働」

コーディネーター 山口 耕一

パネリスト 武川 夏樹氏

君島 利行氏

深谷 昇氏

橋本 澄朗氏



パネルディスカッションの様子

《下野市歴史文化基本構想に関するパブリックコメント》

下野市歴史文化基本構想策定にあたり、基本構想（案）を作成・公開し、平成28年11月11日（金）～11月25日（金）の期間でパブリックコメントを実施した。基本構想（案）は市ホームページ、生涯学習文化課（市庁舎3階）、市民課石橋窓口（石橋公民館）、市民課南河内窓口（南河内図書館2階）で閲覧可能とした。意見については、「意見等提出用紙」に必要事項を記入し、郵送、FAX、電子メールまたは窓口で提出とした。

意見は2名から12件寄せられた。以下に抜粋して掲載する。

- ・ 世代ごとの対応策の検討
- ・ 日酸公園の旧型電車クモエ…近代遺産としての扱いと長期的な整備の検討
- ・ 近現代の歴史資源や農業土木遺産の保存活用
- ・ 市民による歴史遺産の発掘

《下野市歴史文化基本構想策定検討委員及びオブザーバー》

【平成 27 年度】

	氏 名	所 属 等	備 考
1	橋本 澄朗	栃木県考古学会会長	委員長・考古
2	小林 利孝	下野市文化財保護審議会副会長	副委員長
3	杉谷 一男	下野薬師寺ボランティアの会	
4	瀧澤 卓倫	下野市観光協会事務局長	
5	星野 登	総合政策課長	
6	清水 光則	商工観光課長	
7	谷田貝 一彦	都市計画課長	
8	増渕 晴美	生涯学習文化課長	
9	武川 夏樹	栃木県文化財課 保護担当	オブザーバー

10	山口 耕一	生涯学習文化課	事務局
11	橋本 高志	生涯学習文化課	事務局
12	木村 友則	生涯学習文化課	事務局

○コンサルタント (株)文化財保存計画協会

※各文化財分野については、下野市文化財保護審議会で意見を聴取している。

【平成 28 年度】

	氏 名	所 属 等	備 考
1	橋本 澄朗	栃木県考古学会会長	委員長・考古
2	小林 利孝	下野市文化財保護審議会副会長	副委員長
3	杉谷 一男	下野薬師寺ボランティアの会	
4	大橋 義一	下野市観光協会事務局長	
5	星野 登	総合政策課長	
6	小谷野 雅美	商工観光課長	
7	谷田貝 一彦	都市計画課長	
8	海老原 忠	学校教育課長	
9	増渕 晴美	生涯学習文化課長	
10	武川 夏樹	栃木県文化財課 保護担当	オブザーバー

11	山口 耕一	生涯学習文化課	事務局
12	橋本 高志	生涯学習文化課	事務局
13	阿部 さつき	生涯学習文化課	事務局

○コンサルタント (株)文化財保存計画協会

※各文化財分野については、下野市文化財保護審議会で意見を聴取している。

○下野市歴史文化基本構想策定検討委員会設置要綱

平成27年9月24日

教育委員会訓令第5号

(設置)

第1条 下野市内に所在する文化財を幅広くとらえ、文化財をその周辺環境まで含めて総合的に保存・活用するための下野市歴史文化基本構想を策定するため、下野市歴史文化基本構想策定検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事項について検討する。

- (1) 歴史文化基本構想の策定に関すること。
- (2) その他前号に掲げる事項の検討のために必要と認められること。

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 関係する団体の代表者
- (3) 前2号に掲げる者のほか教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、平成29年3月31日までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、委員会を代表し会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数以上の者が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 委員会は、第2条に定める事項を検討するために、必要に応じ関係者に対して、会議への出席を求め、資料の提出、説明、その他必要な協力を求めることができる。

(報償費の支給)

第7条 委員会の会議に出席した委員には、次の表のとおり報償費を支給する。

委員長	日額4,000円
委員	日額3,000円

2 委員会の会議に出席した学識経験者には、前項の規定にかかわらず日額10,000円以内の報償費を支給する。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会事務局生涯学習文化課において処理する。

(その他)

第9条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、公布の日から施行する。

(最初の委員会の招集)

2 この告示による最初の委員会の会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

(この訓令の失効)

3 この訓令は、平成29年3月31日限り、その効力を失う。